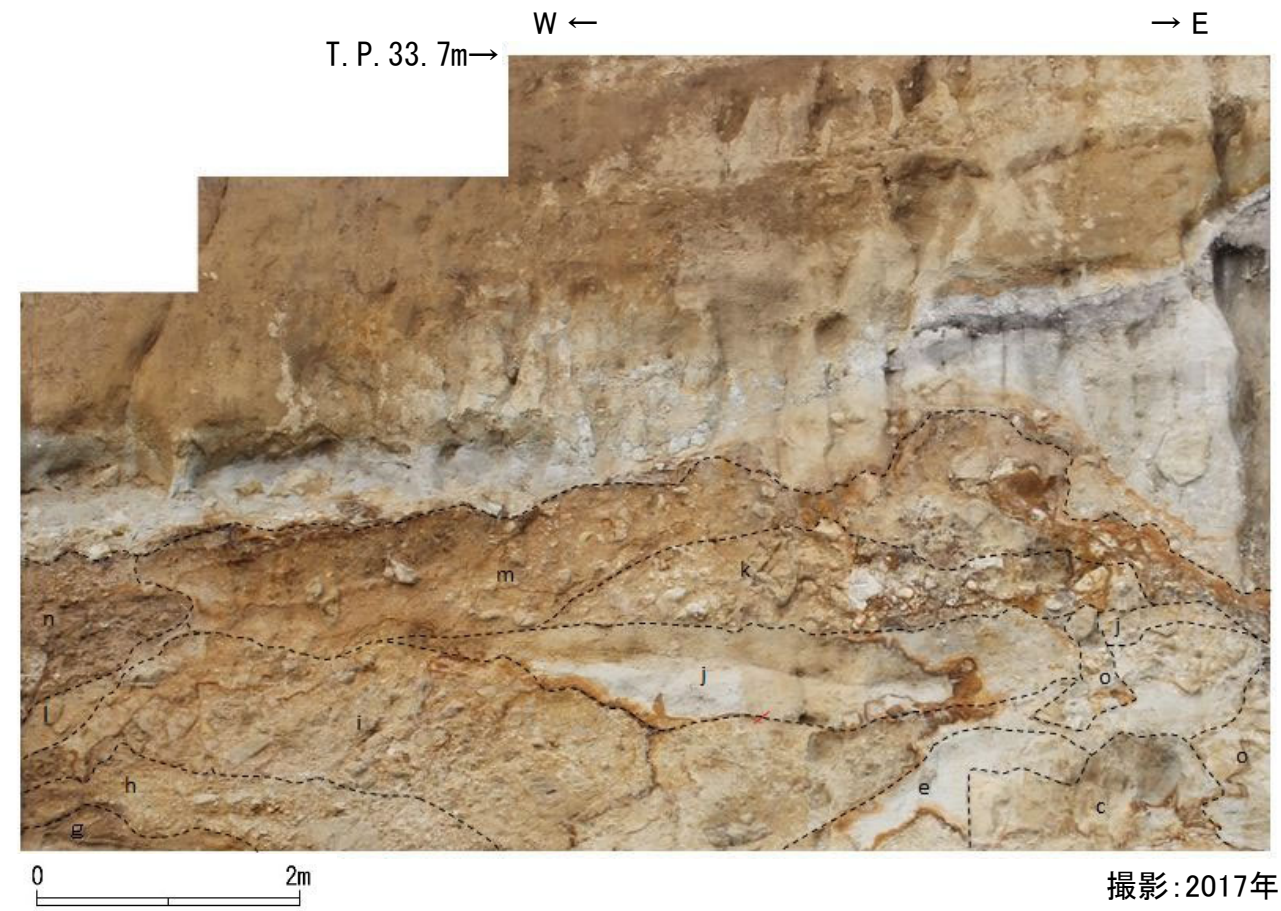
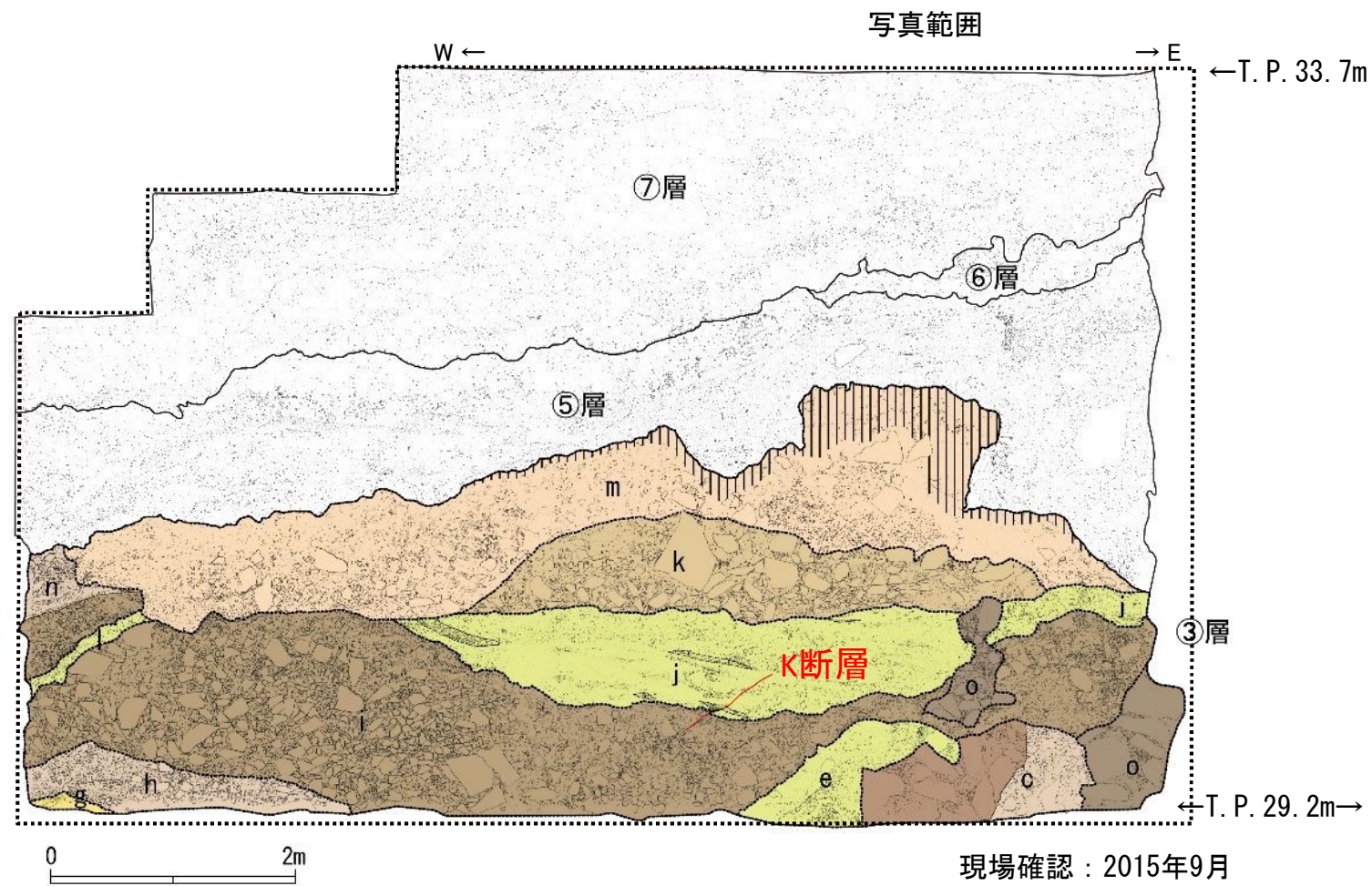


第7.4.4.104図 (9) D-1 トレンチ北西法面の③層の層相区分 (その9)

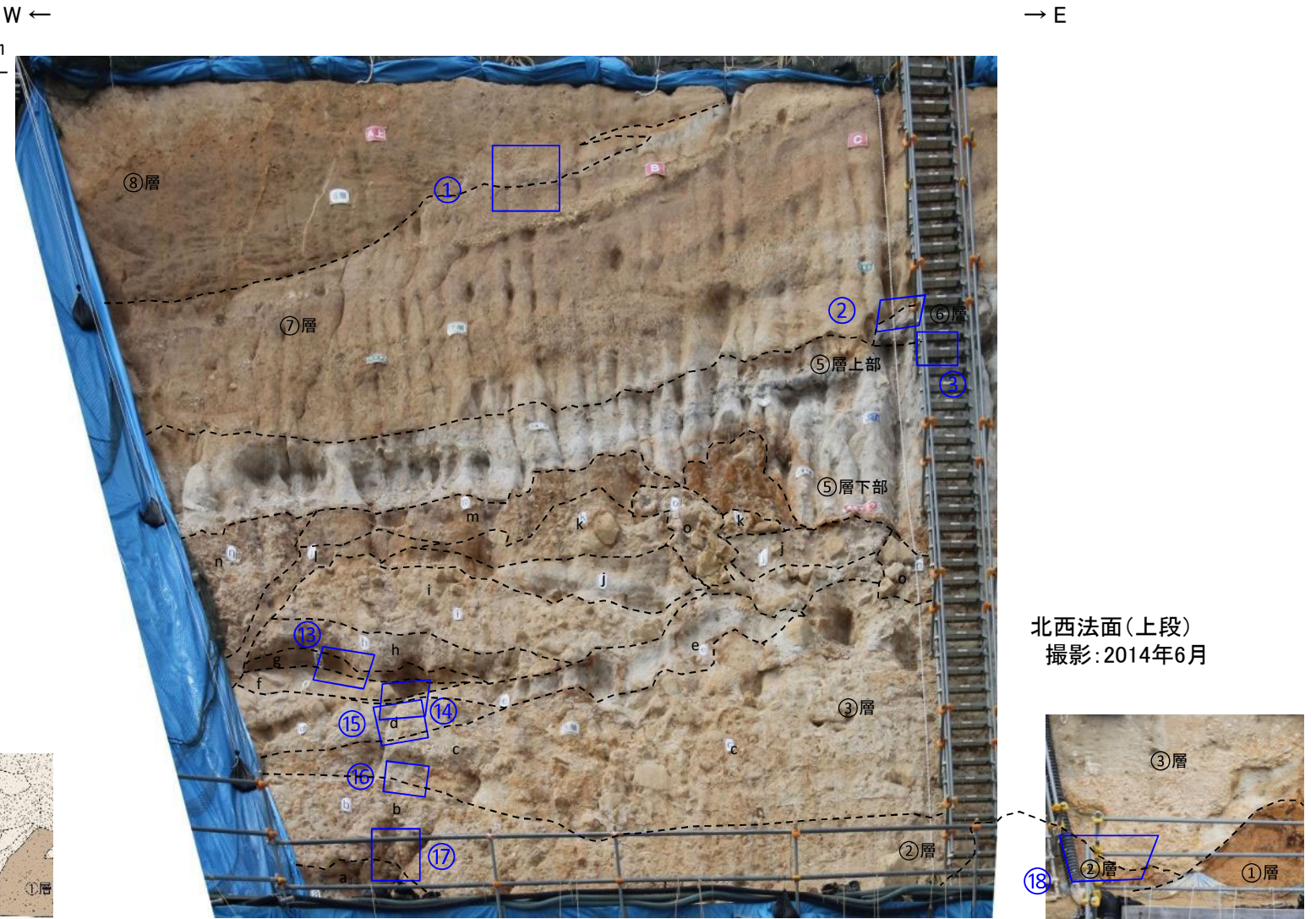
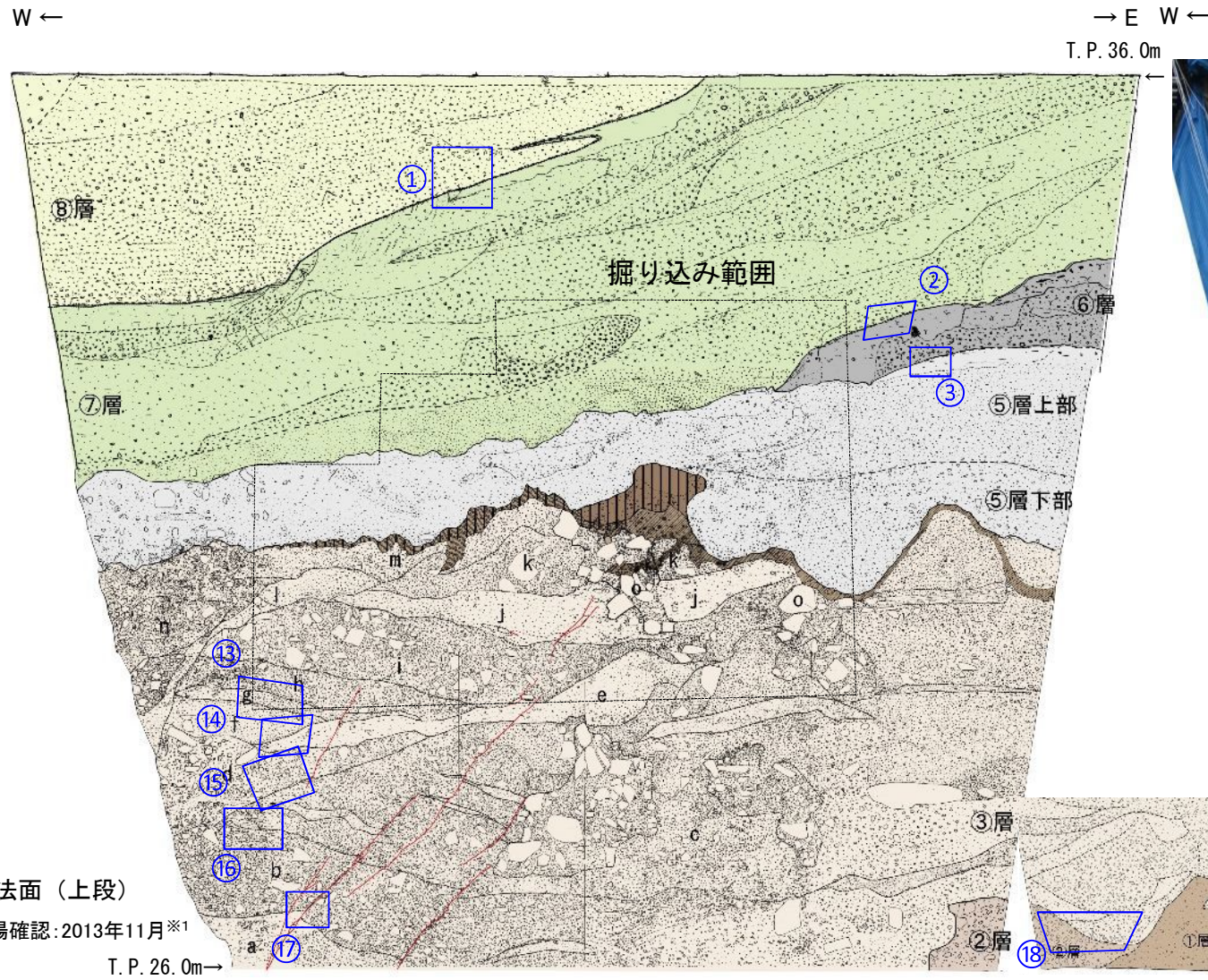
- 岩相区分の結果から北西法面を奥方向に掘り込んだ範囲の③層を区分したスケッチと、岩相区分の解釈線を追記した全景写真を示す。



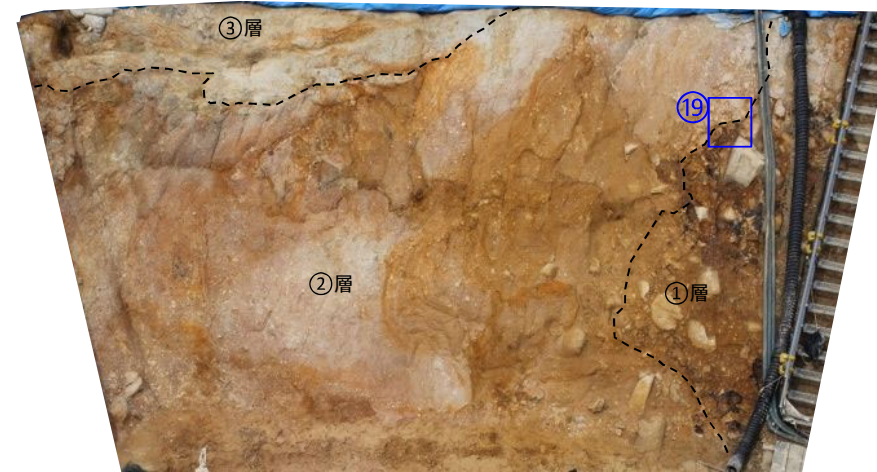
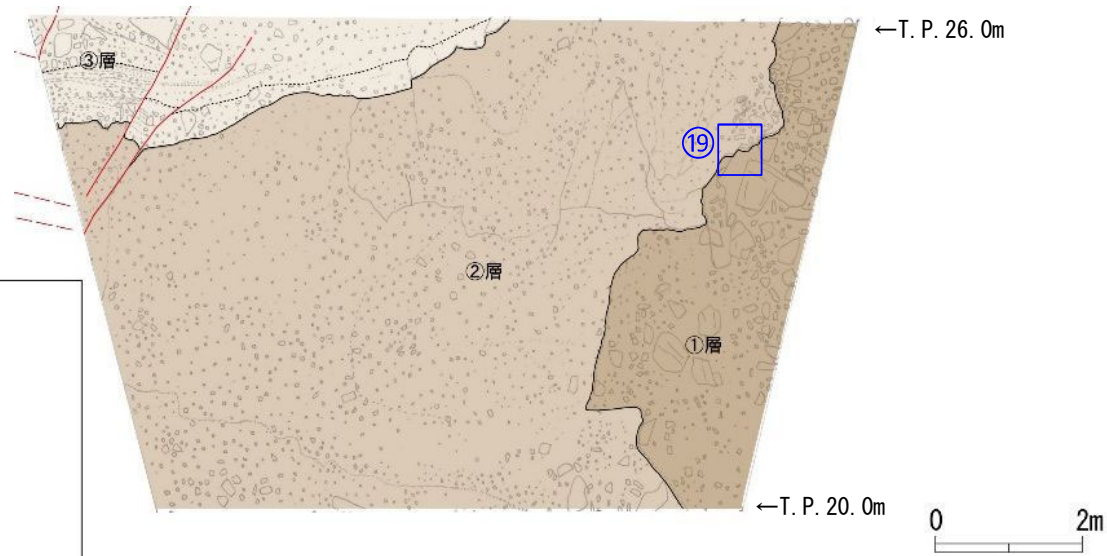
凡例	
⑦層	礫混じりシルト質砂 (灰白色)
⑥層	砂
⑤層	シルト質砂礫 (中～細礫主体)
③層	砂礫 (中～細礫主体)
	土壌化部
XXXX	腐植質
—	せん断面
—	地層境界
- - -	層相境界 (主要なもの)
	シルト質砂礫 (中礫主体)
	砂礫 (大～中礫主体)
	シルト混じり砂礫 (巨～大礫主体)
	砂礫 (巨～大礫主体)

第7.4.4.104図 (10) D-1 トレンチ北西法面の③層の層相区分 (その10)

- 各層の境界において層相観察を実施した。
- 層相観察を実施した位置を示す。



※1 ③層について、K断層の活動時期を詳細に把握するため、再観察を実施した。

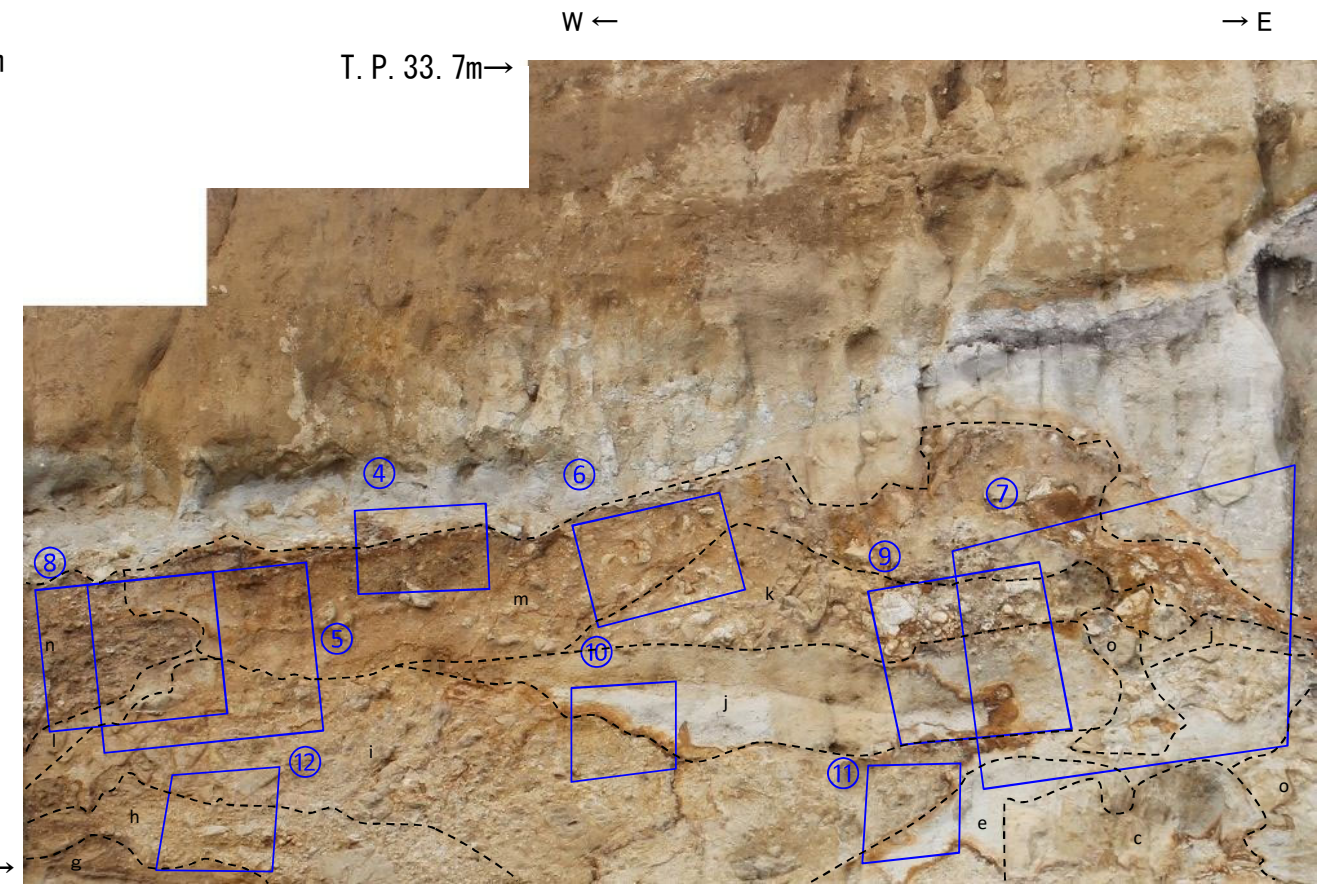
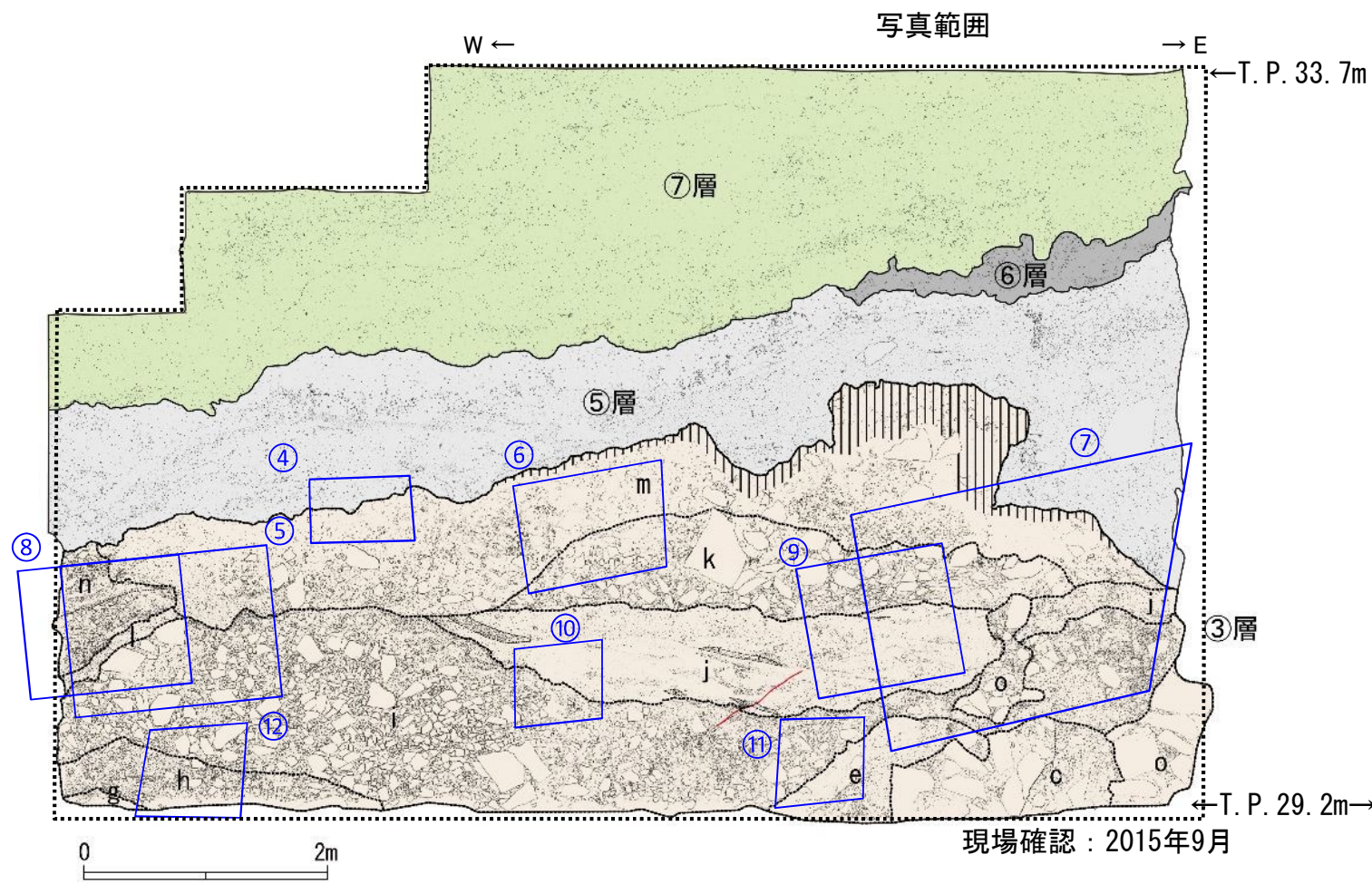


凡例	
⑧層	⑧層
⑦層	⑦層
⑥層	⑥層
⑤層	⑤層
酸化帯	酸化帯
③層	③層
②層	②層
①層	①層
土壌化部	土壌化部
せん断面	せん断面
せん断面（不明瞭）	せん断面（不明瞭）
地層境界	地層境界
層相境界（主要なもの）	層相境界（主要なもの）

※写真を斜めから撮影しているものや、法面に凹凸があること等から、写真撮影位置とスケッチの青枠の形状が異なっているものがある。

第7. 4. 4. 104図（11） D-1 トレンチ北西法面の③層の層相区分（その1 1）


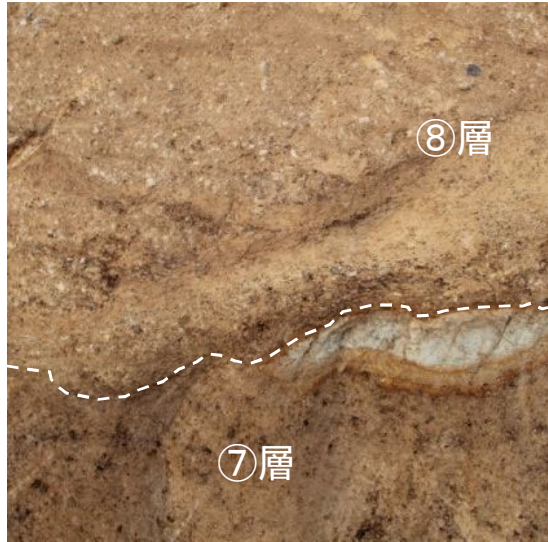

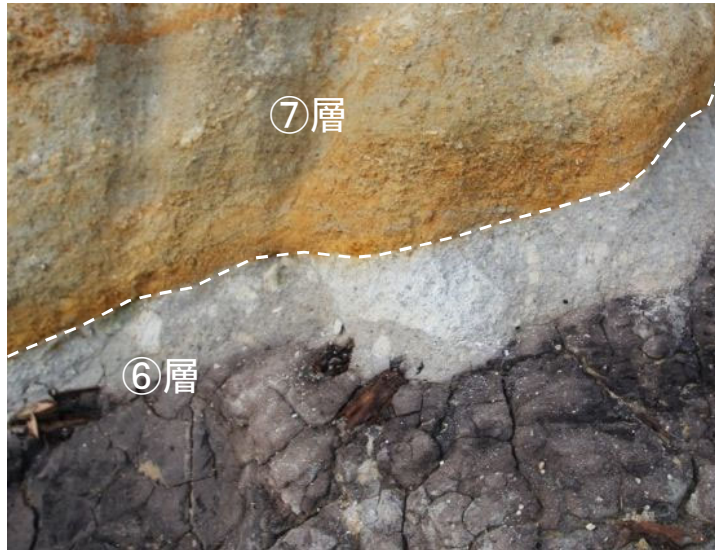

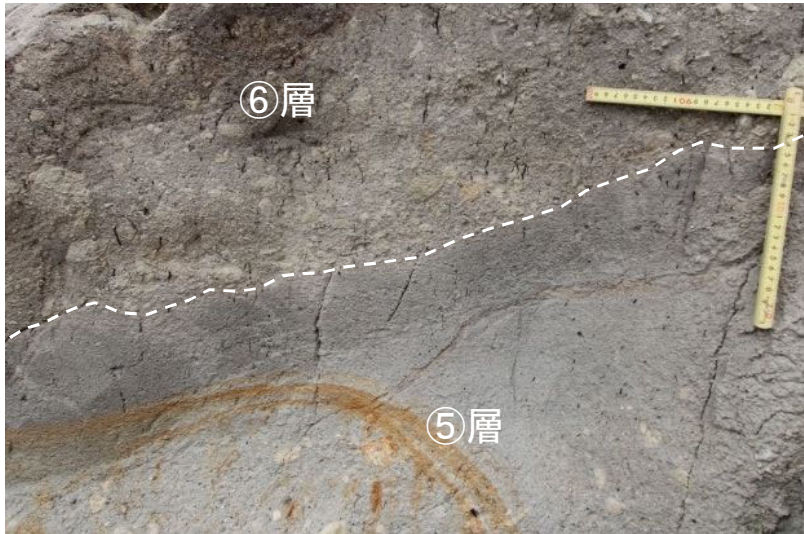
- 各層の境界において層相観察を実施した。
- 層相観察を実施した位置を示す。




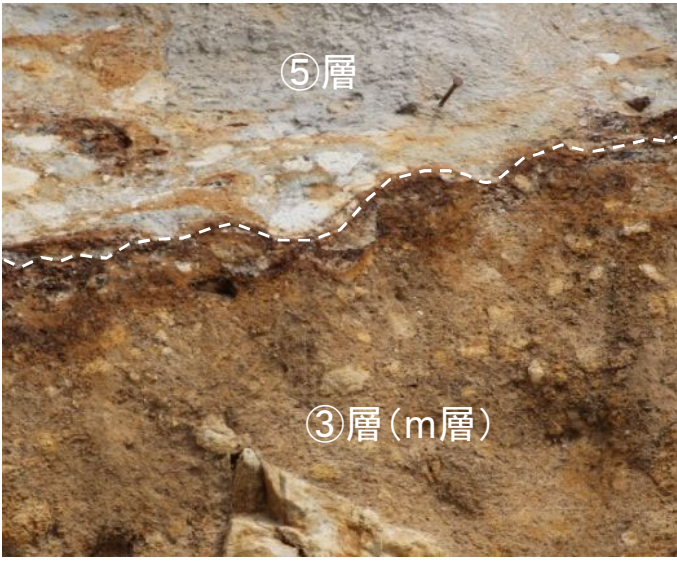

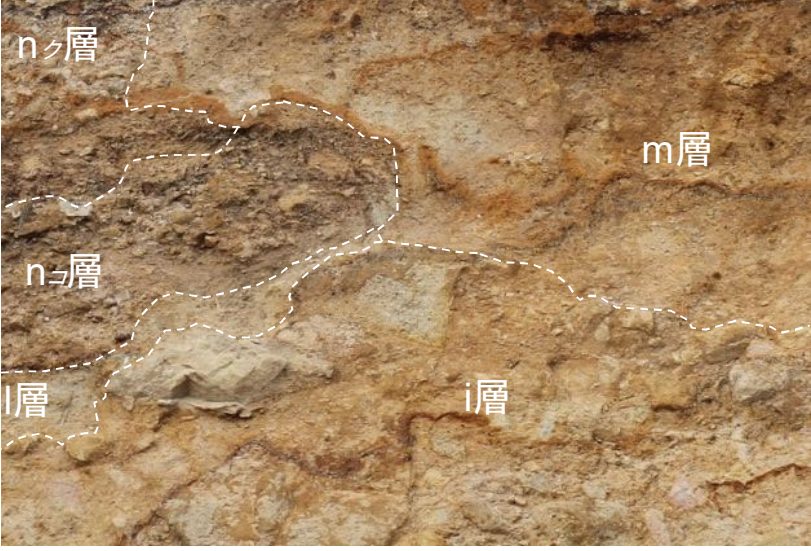

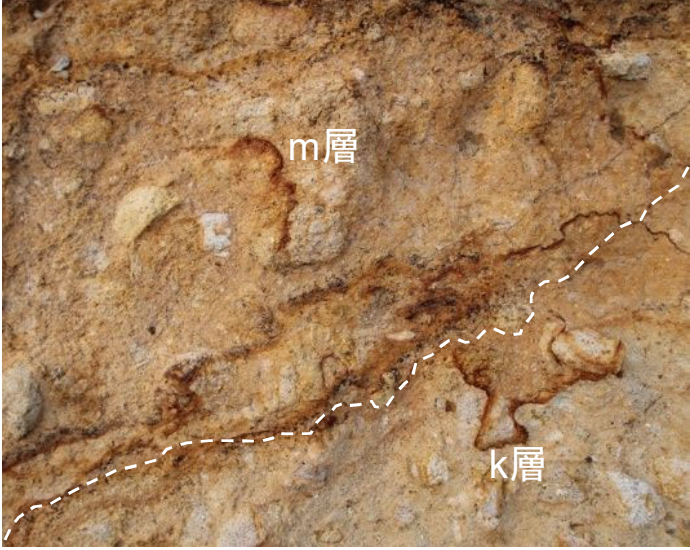
凡例	
 ⑦層	 せん断面
 ⑥層	 地層境界
 ⑤層	
 土壤化部	
 ③層	

※写真を斜めから撮影しているものや、法面に凹凸があること等から、写真撮影位置とスケッチの青枠の形状が異なっているものがある。

第7.4.4.104図 (12) D-1 トレンチ北西法面の③層の層相区分 (その12)


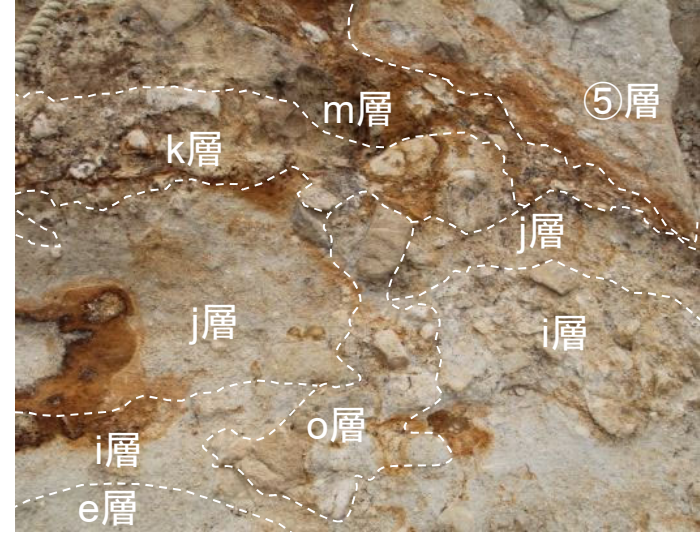

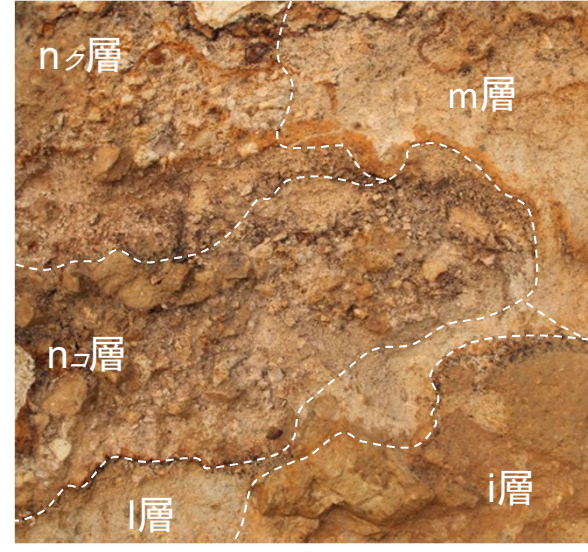

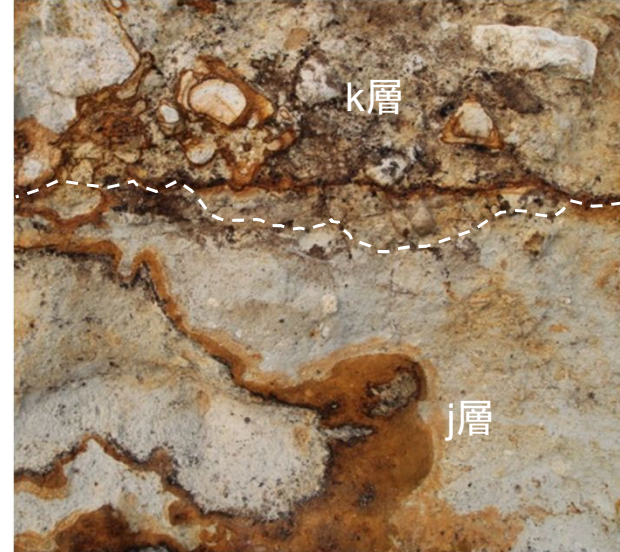
地層名	層相区分	解釈線なし	解釈線あり	性状
⑧層 ⑦層 ⑥層 ⑤層	⑧層- ⑦層	写真① 		⑧：砂礫（細礫主体） 風化している（褐色～黄橙色） ⑧/⑦境界 ⑦：礫混じりシルト質砂 風化して土壌化している （橙色～明黄褐色，灰色）
	⑦層- ⑥層	写真② 		⑦：礫混じりシルト質砂 風化して土壌化している （橙色～明黄褐色，灰色） ⑦/⑥境界 ⑥：腐植質砂質シルト 木片を多数含む（暗灰色）
	⑥層- ⑤層	写真③ 		⑥：腐植質砂質シルト 木片を多数含む（暗灰色） ⑥/⑤境界 ⑤：シルト質砂礫及び 腐植を含むシルト質砂 互層状を呈する （黄灰色～明オリーブ灰色）

※写真（2017年2月撮影）


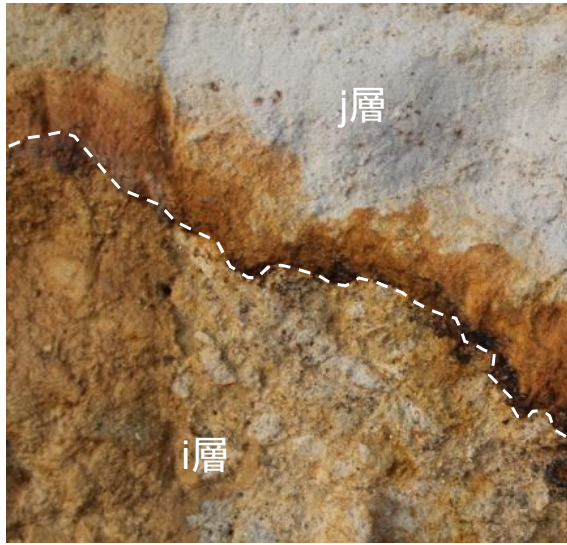



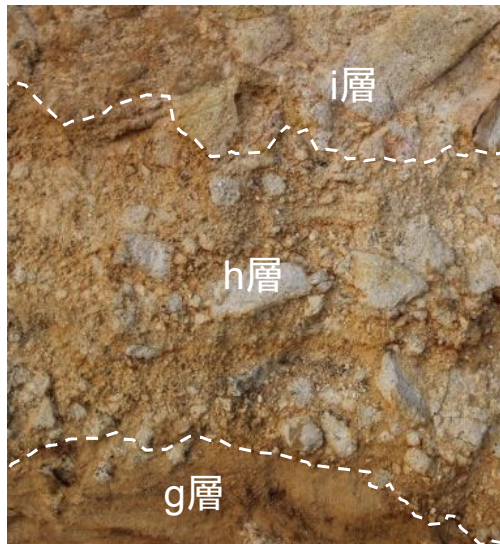
地層名	層相区分	解釈線なし	解釈線あり	性状
⑤層 ③層	⑤層- ③層 (m層)	写真④ 		⑤: シルト質砂礫及び腐植を含むシルト質砂 互層状を呈する (黄灰色～明オリーブ灰色) ⑤/③境界 m: シルト質砂礫 (中～細礫主体) くさり礫が多く風化している 締りが良い (黄橙色～橙色)
③層	n-m-l-i	写真⑤ 		n: 砂礫 (中～細礫主体) チャンネルを埋積する 締りが悪い (橙色) m/n境界 m: シルト質砂礫 (中～細礫主体) くさり礫が多く風化している 締りが良い (黄橙色～橙色) n/i境界 n: 砂礫 (大～中礫主体) チャンネルを埋積する 締りが悪い (橙色) m/i境界 l: 礫混じりシルト質砂 (灰白色～にぶい橙色) i/i境界 i: 砂礫 (大～中礫主体) 東に傾斜する 締りが良い (にぶい橙色)
	k-m	写真⑥ 		m: シルト質砂礫 (中～細礫主体) くさり礫が多く風化している 締りが良い (黄橙色～橙色) m/k境界 k: シルト質砂礫 (中礫主体) 締りが良い (にぶい橙色)

※写真 (2017年2月撮影)


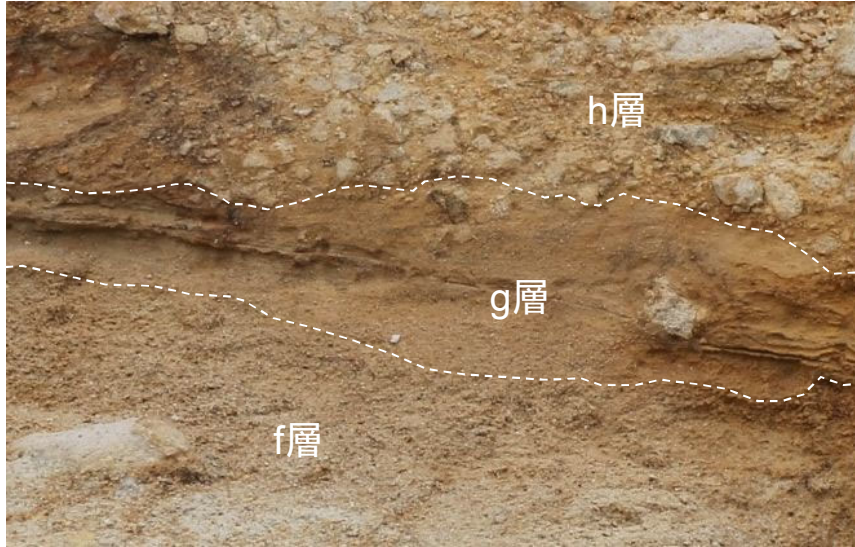



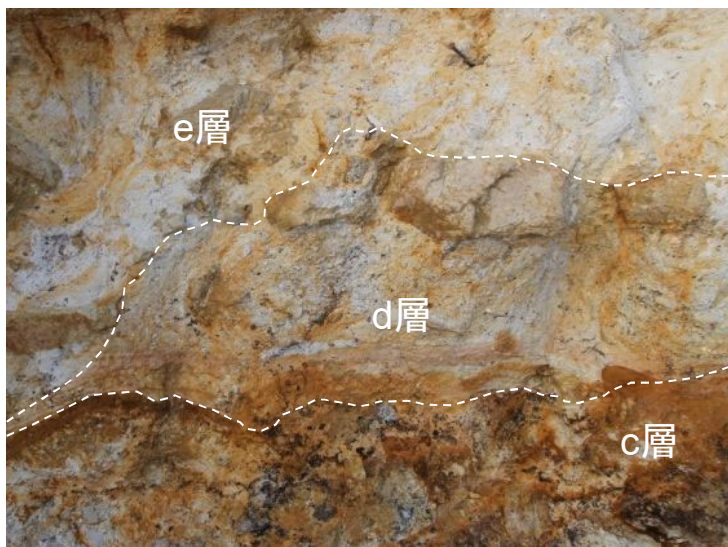
第7.4.4.104図 (14) D-1 トレンチ北西法面の③層の層相区分 (その14)

地層名	層相区分	解釈線なし	解釈線あり	性状
③層	e-i-j-k-m-o-⑤層	写真⑦ 		<p>⑤: シルト質砂礫及び腐植を含むシルト質砂五層状を呈する(黄灰色～明オリーブ灰色)</p> <p>m: シルト質砂礫(中～細礫主体)くさり礫が多く風化している締りが良い(黄橙色～橙色)</p> <p>m/k境界</p> <p>k: シルト質砂礫(中礫主体)締りが良い(にぶい橙色)</p> <p>k/j境界</p> <p>j: 礫混じりシルト質砂締りが良い</p> <p>j/o境界</p> <p>o: 砂礫(巨～大礫主体)水平な地層(i及びj)をチャンネル状に削り込む締りが良い(黄橙色～灰白色)</p> <p>j/i境界</p> <p>i: 砂礫(大～中礫主体)礫が多く締りが良い</p> <p>i/e境界</p> <p>e: 礫混じりシルト質砂締りが良い</p>
	n-m-l-i	写真⑧ 		<p>m: シルト質砂礫(中～細礫主体)くさり礫が多く風化している締りが良い(黄橙色～橙色)</p> <p>m/n境界</p> <p>n: 砂礫(中～細礫主体)チャンネルを埋積する締りが悪い(橙色)</p> <p>n/l境界</p> <p>l: 礫混じりシルト質砂(灰白色～にぶい橙色)</p> <p>l/i境界</p> <p>i: 砂礫(大～中礫主体)東に傾斜する締りが良い(にぶい橙色)</p> <p>m/i境界</p> <p>※n層は撮影範囲外</p>
	j-k	写真⑨ 		<p>k: シルト質砂礫(中礫主体)締りが良い(にぶい橙色)</p> <p>k/j傾斜不整合境界</p> <p>j: 礫混じりシルト質砂腐植を含み締りが良い東に傾斜する(灰白色, にぶい橙色)</p>


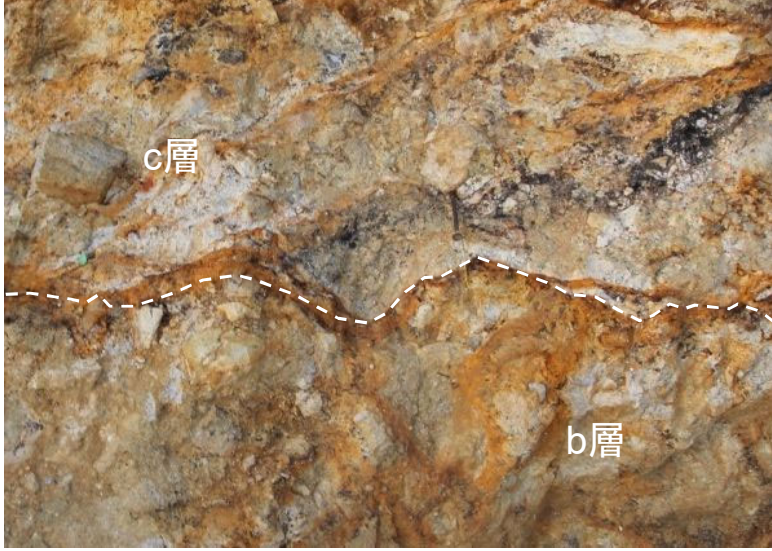

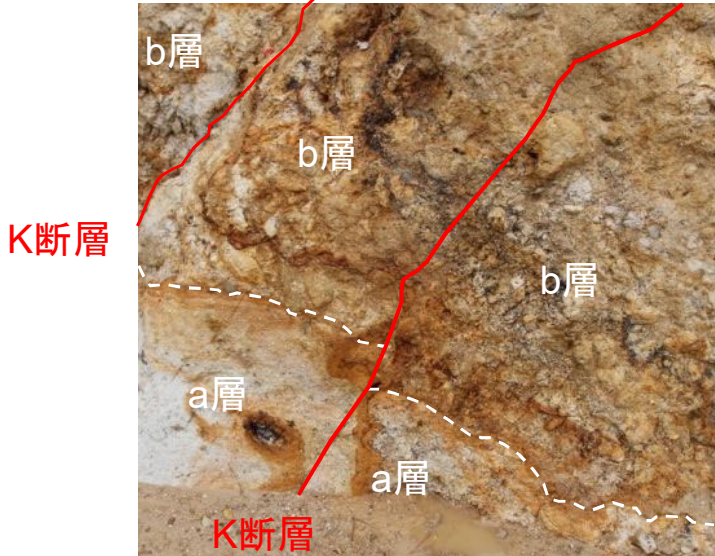
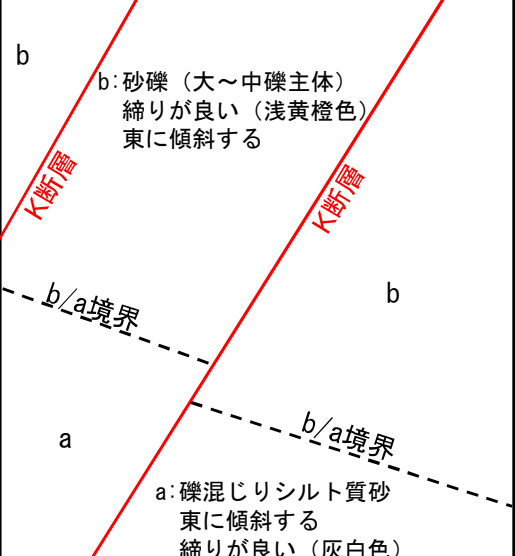

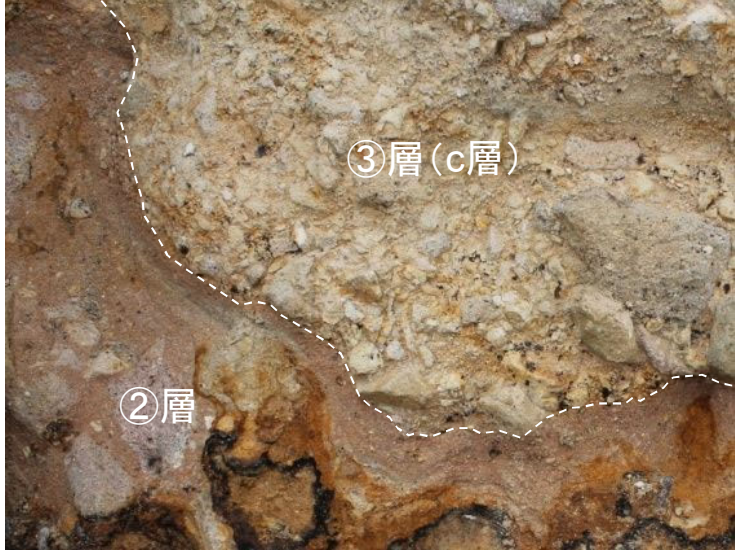
※写真(2017年2月撮影)

地層名	層相区分	解釈線なし	解釈線あり	性状
③層	i-j	写真⑩  10cm	 j層 i層	j: 礫混じりシルト質砂 腐植を含み締りが良い 東に傾斜する (灰白色, にぶい橙色) j/i境界 i: 砂礫 (大~中礫主体) 東に傾斜する 締りが良い (にぶい橙色)
	e-i	写真⑪  10cm	 i層 e層	i: 砂礫 (大~中礫主体) 東に傾斜する 締りが良い (にぶい橙色) i/e境界 e: 礫混じりシルト質砂 チャネル壁に沿う 締りが良い (灰白色)
	g-h-i	写真⑫  10cm	 i層 h層 g層	i: 砂礫 (大~中礫主体) 東に傾斜する 締りが良い (にぶい橙色) i/h境界 h: 砂礫 (中~細礫主体) 締りが良い (にぶい橙色) h/g境界 g: 砂 堆積構造が明瞭で 締りが良い (にぶい橙色)

※写真 (2017年2月撮影)



地層名	層相区分	解釈線なし	解釈線あり	性状
③層	f-g-h	写真⑬ 		h: 砂礫 (中～細礫主体) 締りが良い (にぶい橙色) h/g境界 g: 砂 堆積構造が明瞭で 締りが良い (にぶい橙色) g/f境界 f: 巨～大礫混じり砂 堆積構造が認められる 締りが良い (浅黄橙色)
	e-f	写真⑭ 		f: 巨～大礫混じり砂 堆積構造が認められる 締りが良い (浅黄橙色) f/e境界 e: 礫混じりシルト質砂 チャネル壁に沿う 締りが良い (灰白色)
	c-d-e	写真⑮ 		e: 礫混じりシルト質砂 チャネル壁に沿う 締りが良い (灰白色) e/d境界 d: シルト質砂礫 (大～中礫主体) チャネル壁に沿う 締りが良い (灰白色) d/c境界 c: 締りの良い砂及び砂礫 (中～細礫主体) 砂層を挟む (にぶい黄色, 灰白色, 暗灰色)

※写真 (2017年2月撮影)

地層名	層相区分	解釈線なし	解釈線あり	性状
③層	b-c	写真①⑥ 		c: 締りの良い砂及び砂礫 (中～細礫主体) 砂層を挟む (にぶい黄色, 灰白色, 暗灰色) ----- c/b境界 ----- b: 砂礫 (大～中礫主体) 締りが良い (浅黄橙色)
	a-b	写真①⑦ 		 b b: 砂礫 (大～中礫主体) 締りが良い (浅黄橙色) 東に傾斜する K断層 ----- b/a境界 ----- a a: 礫混じりシルト質砂 東に傾斜する 締りが良い (灰白色)
③層 ②層	③層 (c層) - ②層	写真①⑧ 		----- ----- c: 締りの良い砂及び砂礫 (中～細礫主体) 砂層を挟む (にぶい黄色, 灰白色, 暗灰色) ----- ③/②境界 ----- ②: 砂質シルト くさり礫を多く含む 締りが良い (にぶい橙色～灰白色)

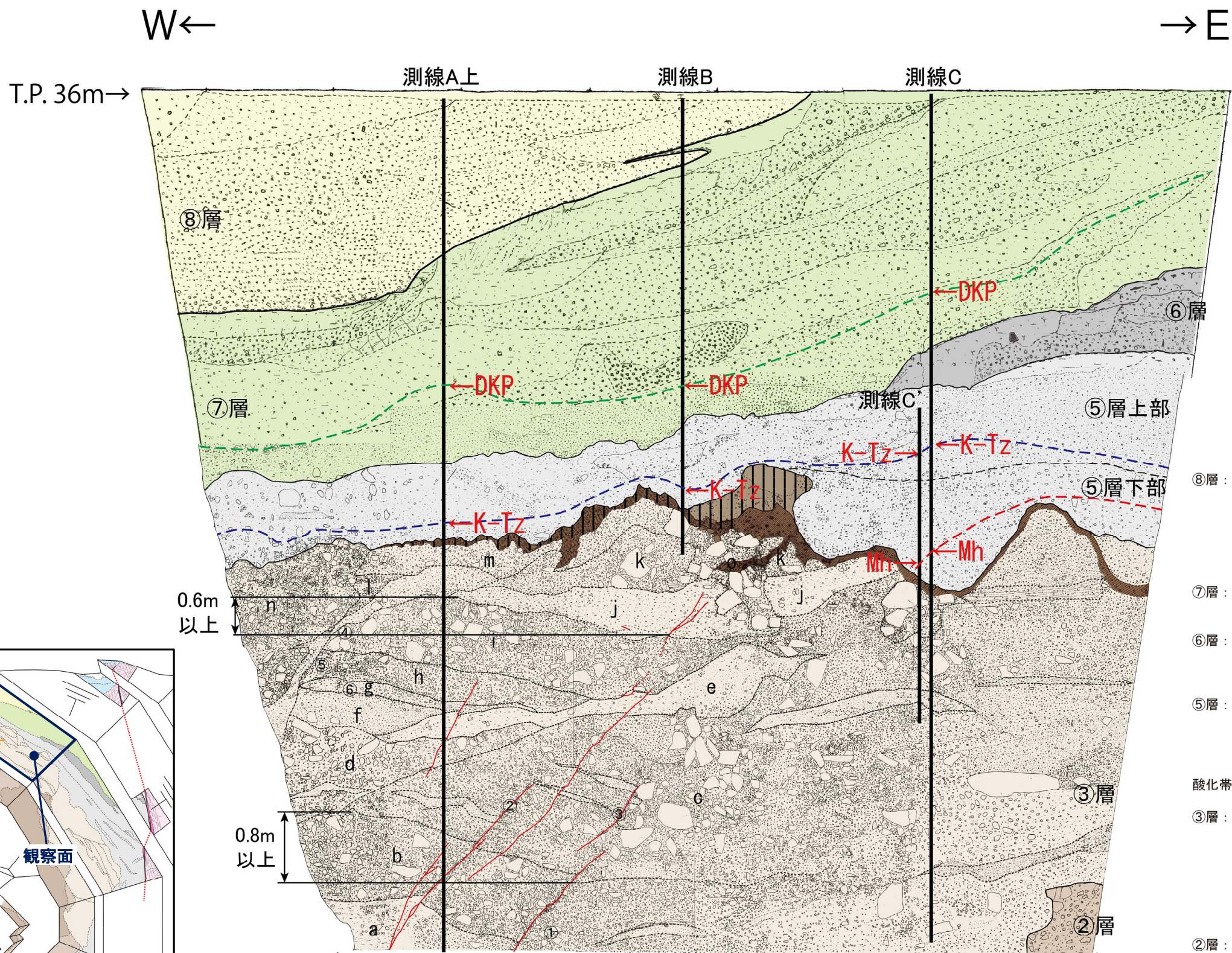
※写真 (2017年2月撮影)

第7.4.4.104図 (18) D-1 トレンチ北西法面の③層の層相区分 (その18)

地層名	層相区分	解釈線なし	解釈線あり	性状
②層 ①層	②層- ①層	写真⑱ 		②：砂質シルト くさり礫を多く含む 締りが良い（にぶい橙色～灰白色） ②/①境界 ①：砂礫 くさり礫を多く含む 締りが良い（にぶい赤褐色）

※写真（2017年2月撮影）

- K断層は、D-1トレンチ北西法面では、MIS6以前に堆積したm層の下位の地層であるk層に変位・変形を与えていない。
- K断層は、③層中のj層までの地層に変位や変形を与えており、j層中の腐植層や砂礫層の層理は東へ傾斜している。
- 撓曲変形を含めたj層基底の鉛直変位量は0.6m以上である。
- 一方、j層直上のk層は、下位のj層を傾斜不整合関係で覆っており、k層の基底及びk層中の砂層はほぼ水平である。



凡例

- ⑧層
- ⑦層
- ⑥層
- ⑤層
- 酸化帯
- ③層
- ②層
- 土壤化部
- せん断面
- せん断面(不明瞭)
- 地層境界
- 層相境界(主要なもの)
- DKP 降灰層準
- K-Tz 降灰層準
- Mh 降灰層準

⑧層：砂礫
礫径5cm以下、特に1cm以下の角～亜角礫を主体とし、まれに10cm程度の礫を含む。礫種は新鮮な花崗斑岩、アブライト、石英である。基質はシルト質細～中粒砂からなり、ゆるい。成層構造(ほぼ水平、一部斜交葉理様)が見られる。褐(7.5YR4/6)、黄橙(7.5YR7/8)を呈する。

⑦層：礫混じりシルト質砂～礫混じり砂質シルト(砂礫を伴う)
橙色～明黄褐色(7.5YR6/6～10YR6/6)、灰色(10Y6/1)を呈する。

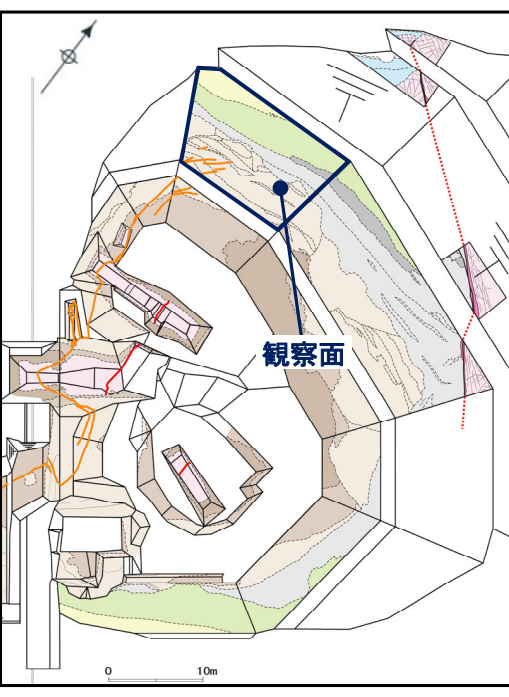
⑥層：腐植質砂質シルト～シルト質砂(一部に砂礫を伴う)
木片を多数含む。暗灰(N3/), 灰(10Y6/1)を呈する。

⑤層：砂礫主体(礫混じりシルト質砂～礫混じり砂質シルト層を伴う)
礫は径0.5～20cmの角～亜円礫主体。大局的には上方細粒化の傾向を示す。黄灰色～明オリーブ灰色(2.5Y6/1～2.5GY7/1)を呈する。

酸化帯：③層と⑤層の境界面付近に多い。

③層：砂礫
主に20cm以下(まれに50cm大)の角～亜角礫を含む。礫種は花崗斑岩、花崗岩である。淘汰は極めて悪い。基質は細～粗粒砂で、締まりは良好である。一部レンズ状に砂層を挟む。にぶい橙色～橙色(7.5YR7/3～7.5YR6/6)を呈する。K断層近辺の砂礫層は、撓曲を示す。

②層：礫混じりシルト
礫径0.2～30cm(まれに50cm以上)で、亜角～角礫を含む。礫種はアブライト、粗粒花崗岩からなる。礫率10～20%である。にぶい橙色～明青灰色(5YR6/4～10BG7/1)を呈する。

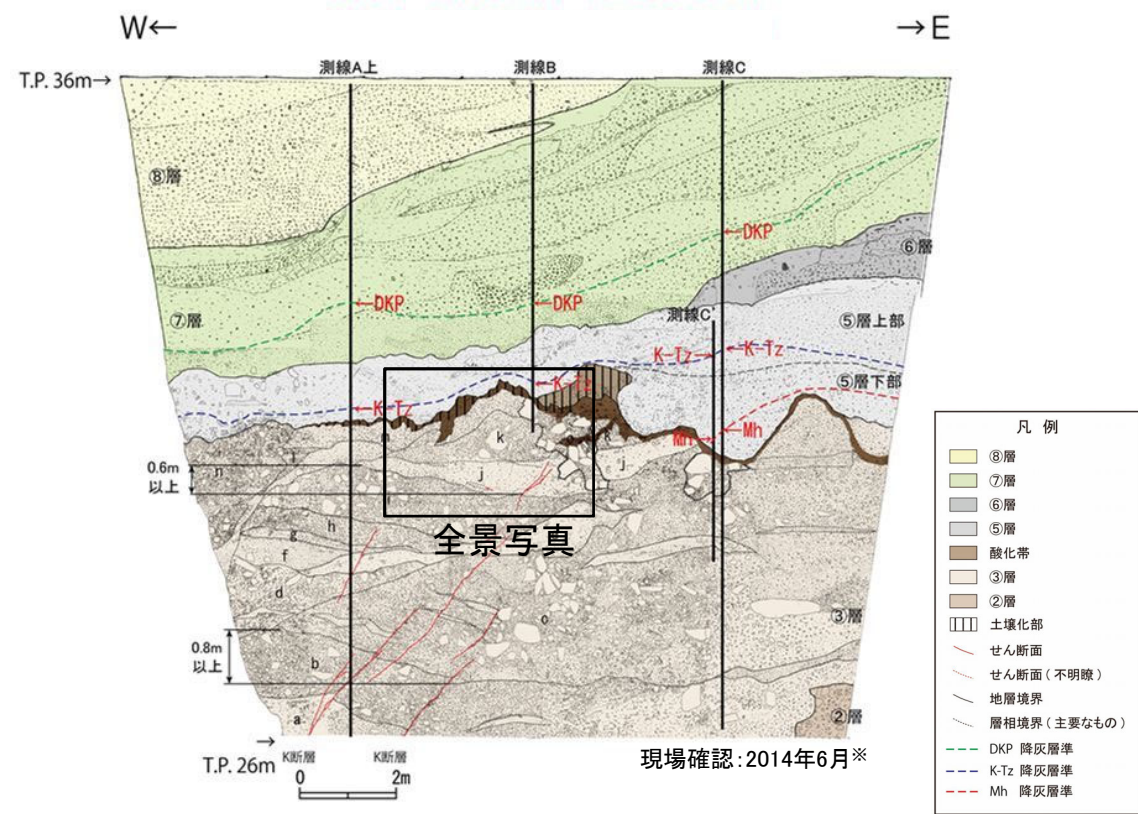


調査位置図

現場確認：2012年12月

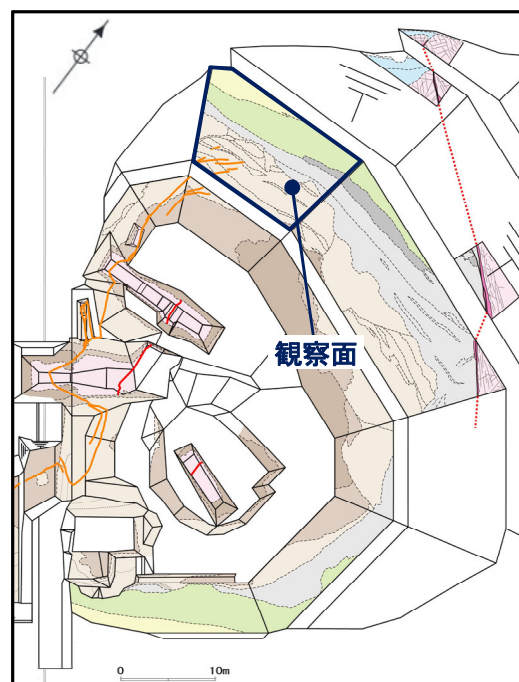
- ①：f: N25° E58° W
- ②：f: N20° E63° W
- ③：f: N22° E57° W
- ④：チャネルの壁 N87° W42° S
- ⑤：チャネルの壁 N33° W46° W
- ⑥：堆積構造 N69° E16° S
- f: せん断層

- K断層は、③層中のj層までの地層に変位や変形を与えている。
- 一方、j層直上のk層は、下位のj層を傾斜不整合関係で覆っており、k層の基底はほぼ水平である。

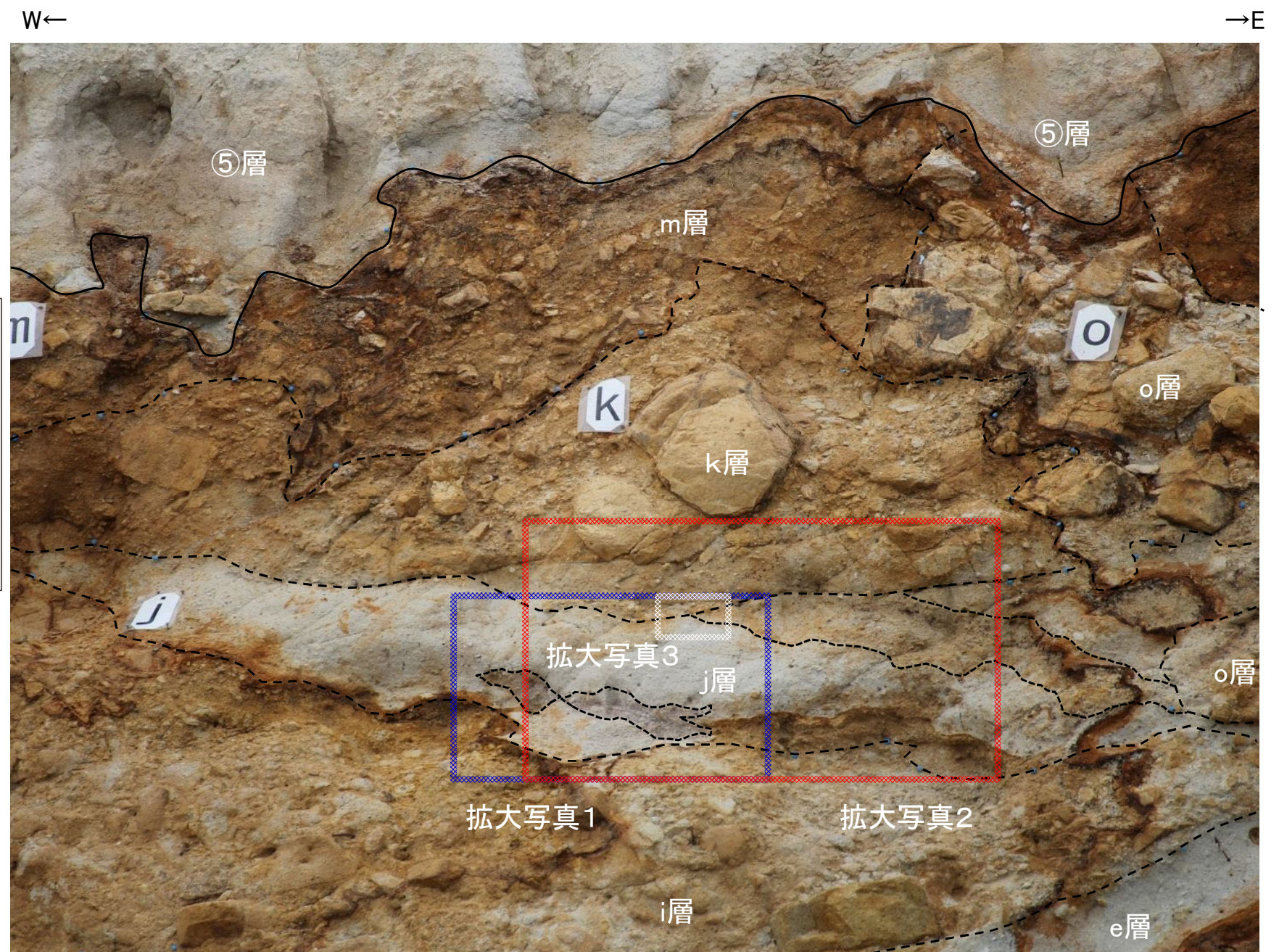


D-1トレンチ 北西法面

※K断層による地層の変形範囲について、より定量的な整理を行うため再観察を実施した。



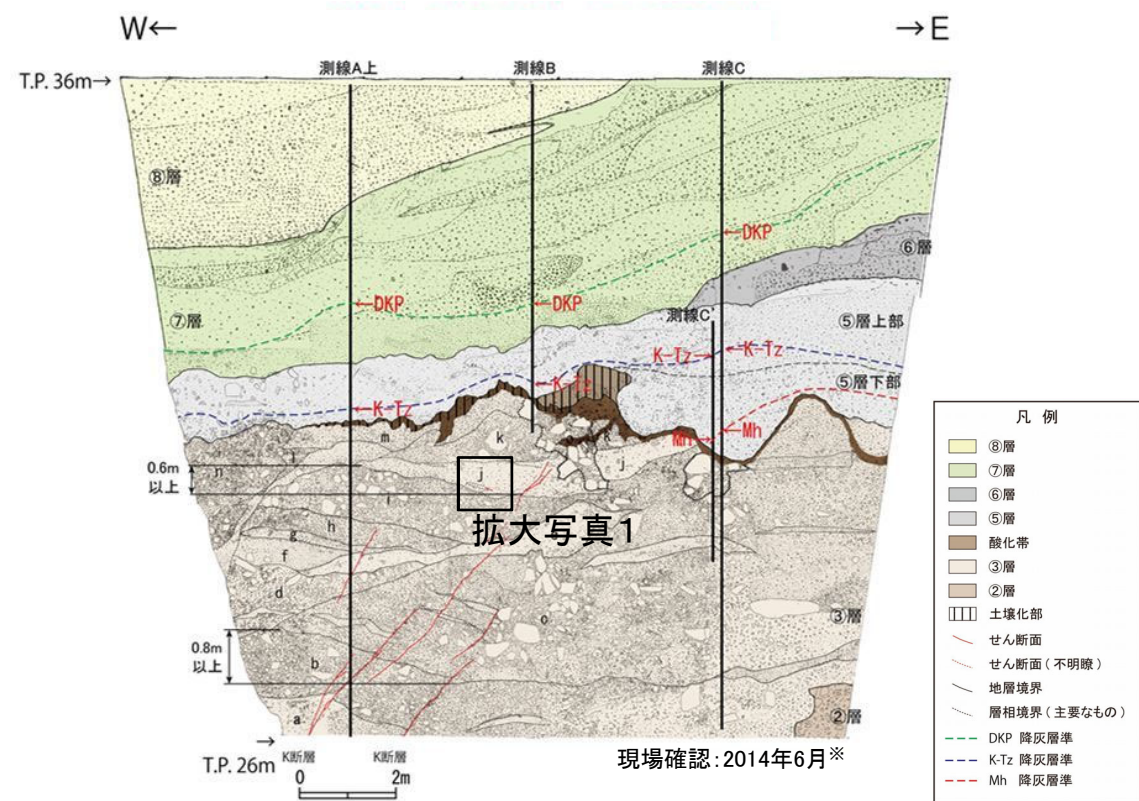
調査位置図



全景写真

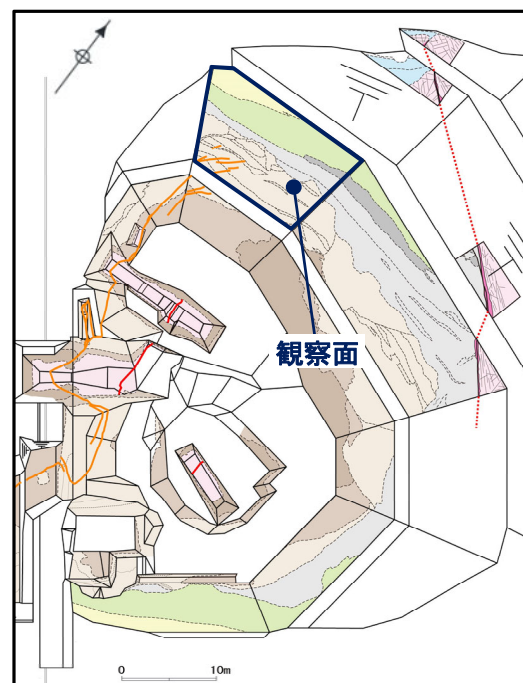
撮影: 2014年6月

• K断層は、③層中のj層までの地層に変位や変形を与えており、j層中の腐植層は東へ傾斜している。

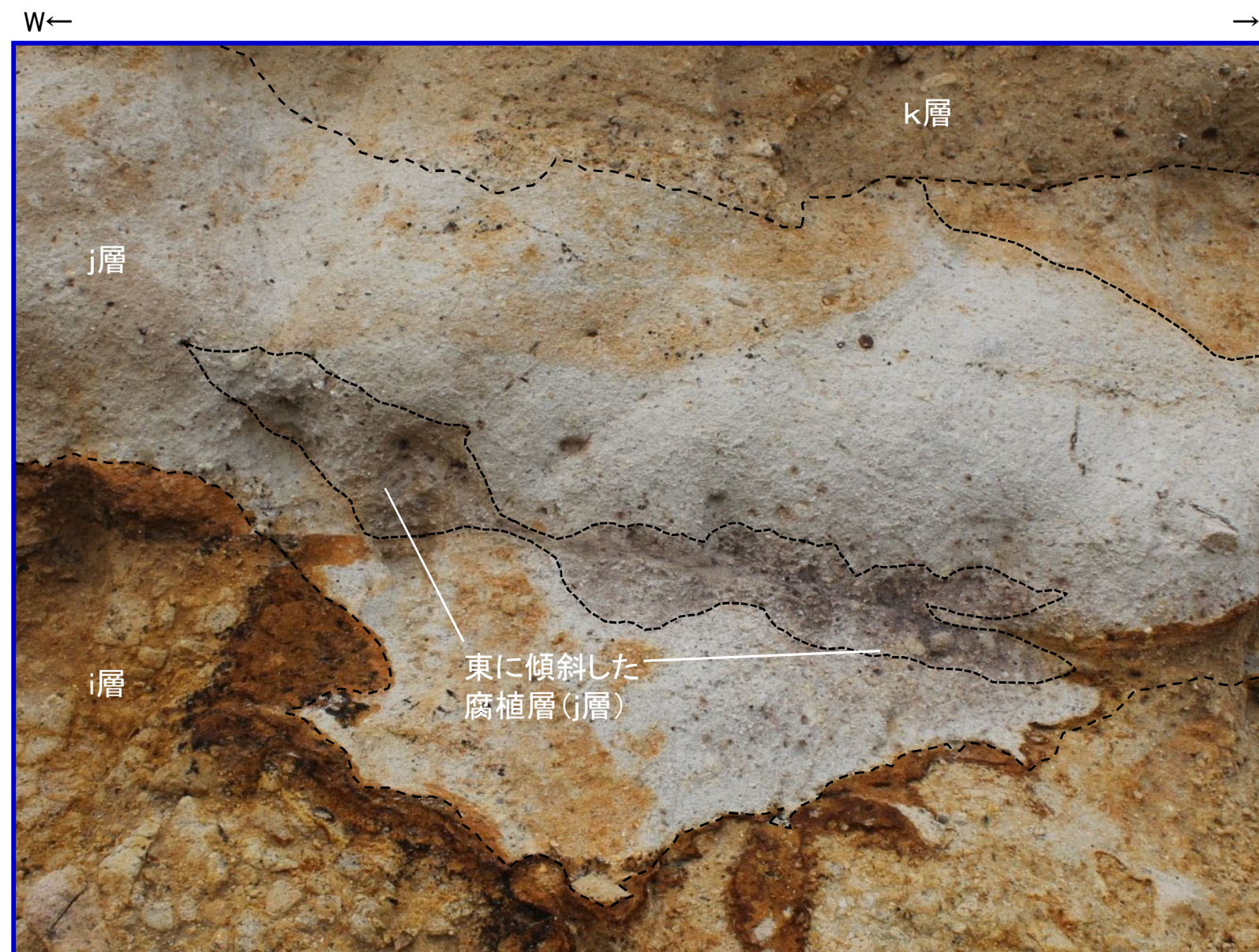


D-1トレンチ 北西法面

※K断層による地層の変形範囲について、より定量的な整理を行うため再観察を実施した。



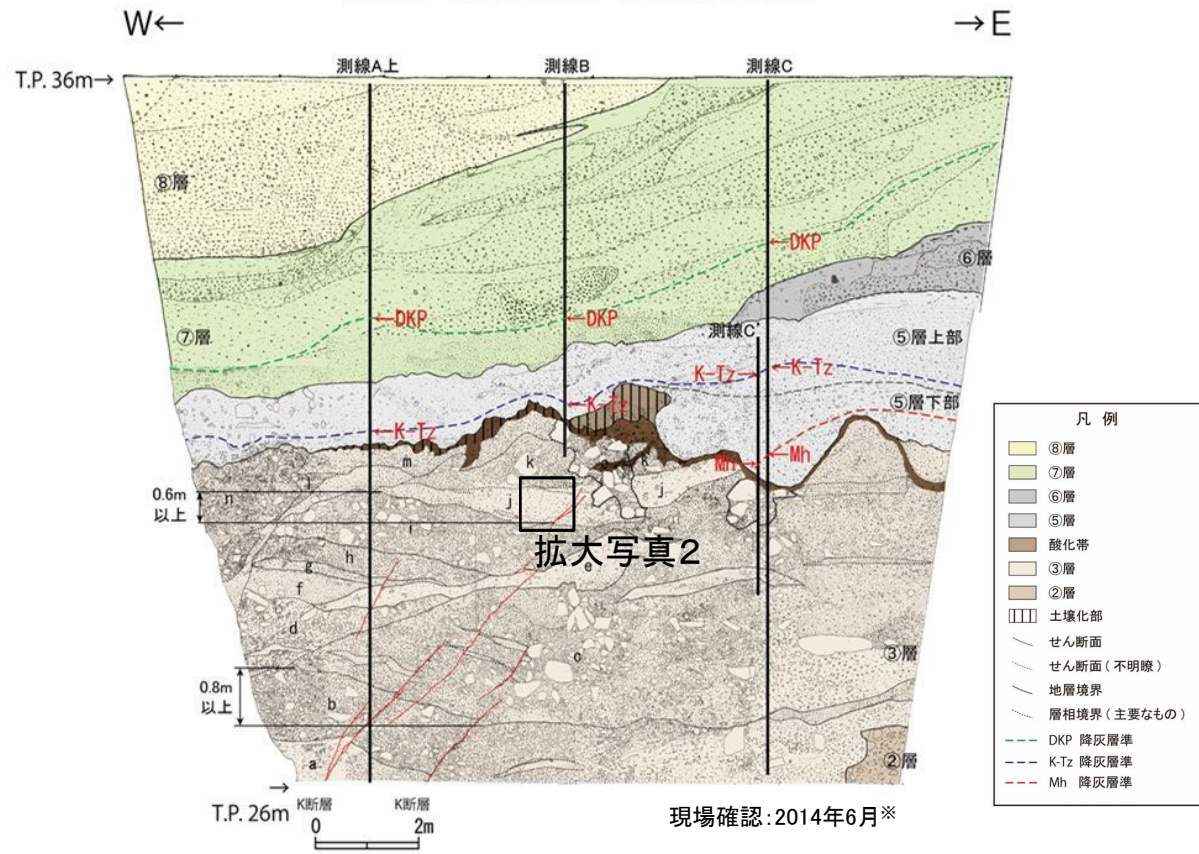
調査位置図



拡大写真1

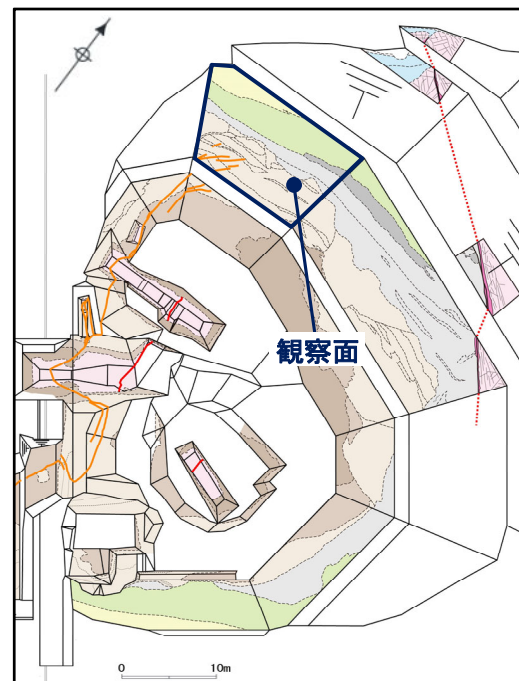
撮影: 2014年7月

- K断層は、③層中のj層までの地層に変位や変形を与えており、j層中の腐植層は東へ傾斜している。
- 一方、j層直上のk層は、下位のj層を傾斜不整合関係で覆っており、k層の基底及びk層中の砂層はほぼ水平である。



D-1トレンチ 北西法面

※K断層による地層の変形範囲について、より定量的な整理を行うため再観察を実施した。



調査位置図



東に傾斜した腐植層（j層）

拡大写真2

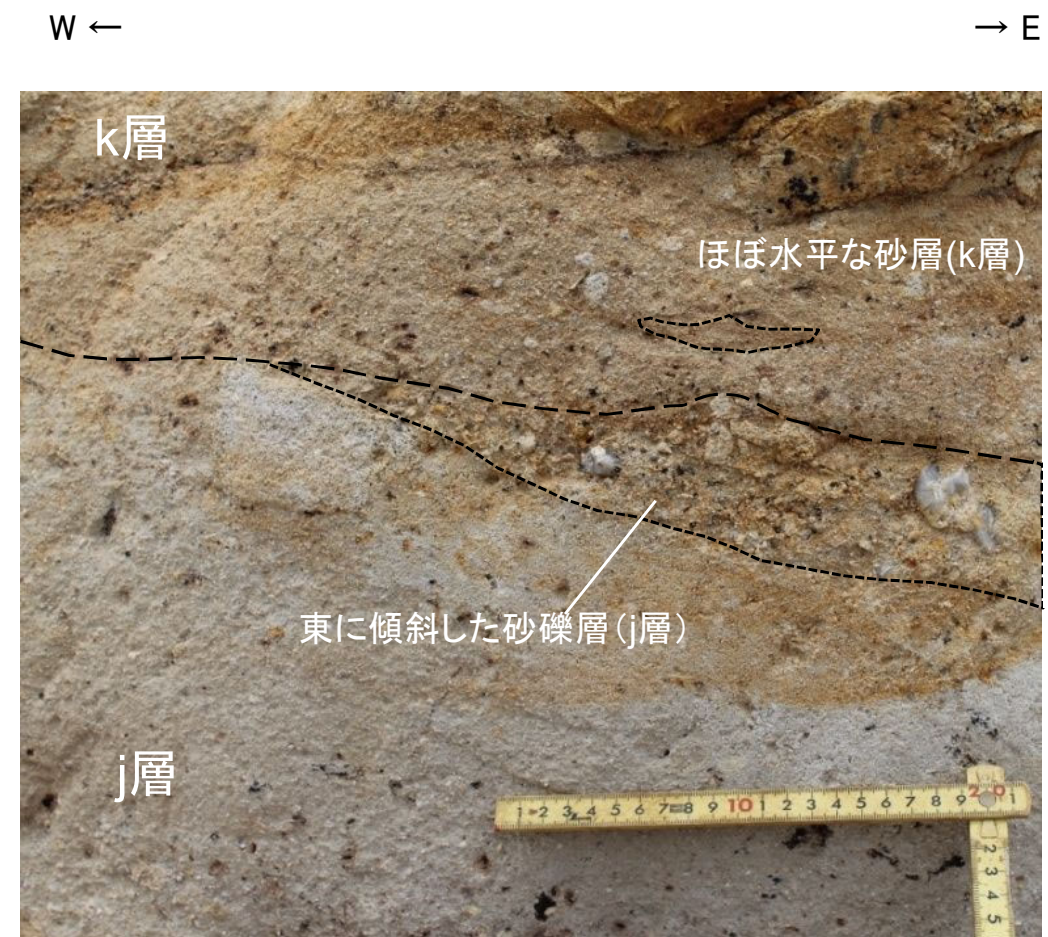
撮影：2014年7月

- K断層は, ③層中のj層までの地層に変位や変形を与えており, j層中の砂礫層の層理は東へ傾斜している。
- 一方, j層直上のk層は, 下位のj層を傾斜不整合関係で覆っており, k層の基底及びk層中の砂層はほぼ水平である。



撮影：2014年8月

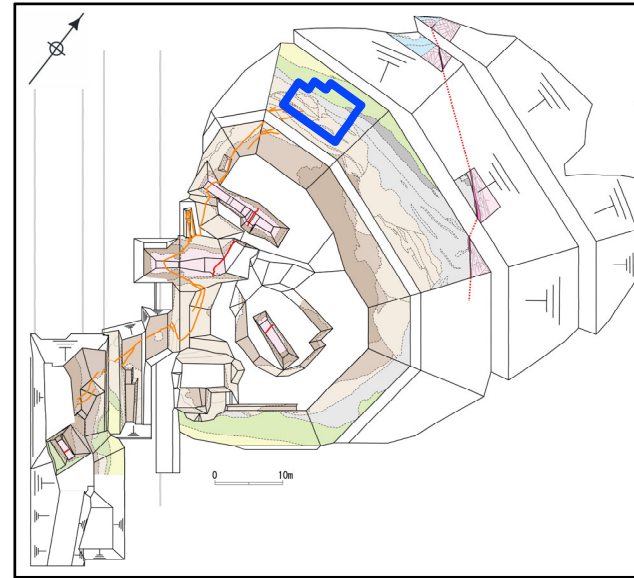
拡大写真 3



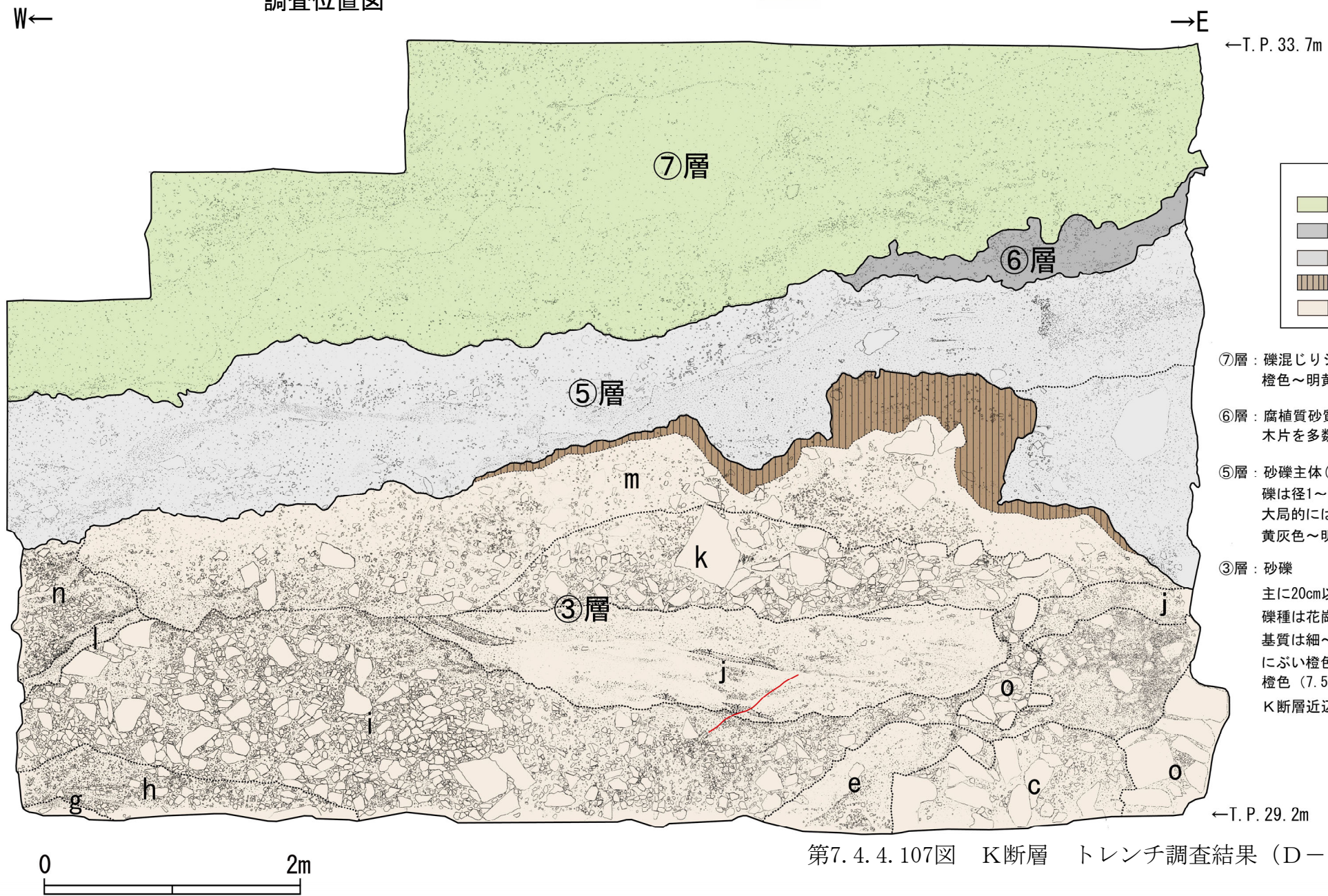
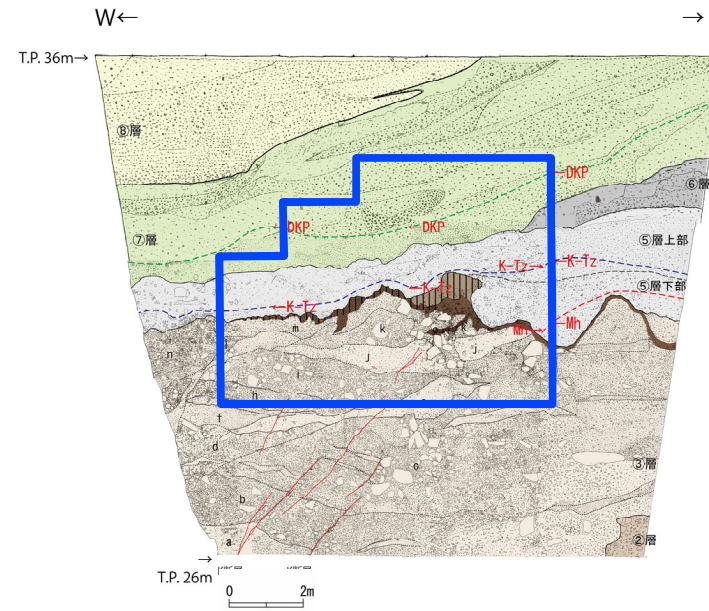
撮影：2014年8月

j層／k層境界

- k層はo層によってチャンネル状に削られていたことから、同法面をさらに奥行方向に掘削した。
- その結果、o層の分布範囲は狭小となり、j層とk層との傾斜不整合関係やk層基底の水平性がより明瞭となった。



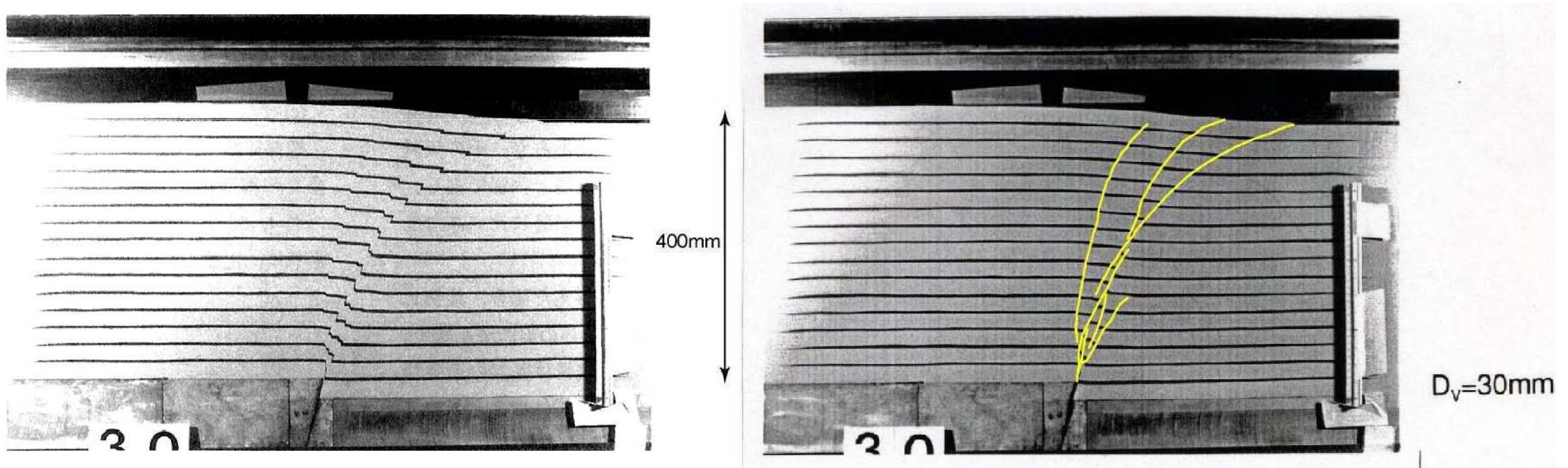
調査位置図



現場確認：2015年9月

第7.4.4.107図 K断層 トレンチ調査結果 (D-1 トレンチ北西法面) 法面掘り込みスケッチ

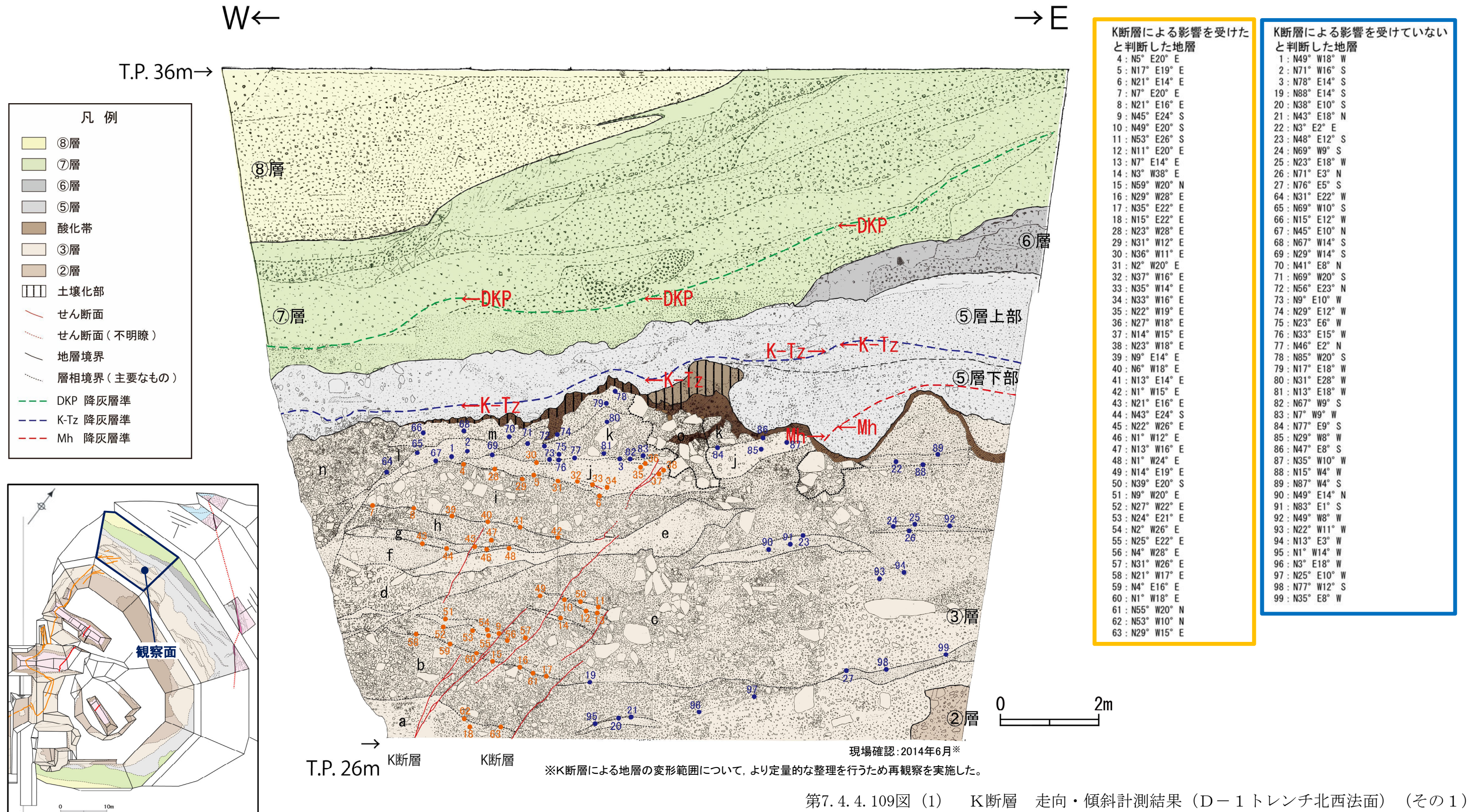
- 上田・谷(1999)⁽¹⁹⁰⁾によれば, 逆断層運動を模擬した断層模型実験では, 「変位・変形は, 上方に向かって断層沿いのずれ変位主体から撓曲等の連続的変形主体に変化する傾向が認められる。」とされており, K断層がD-1トレンチ北西法面の③層の上部に位置するj層において変形が主体となっている状況と整合している。



上田・谷(1999)⁽¹⁹⁰⁾に加筆

図-8 豊浦標準砂地盤における剪断層の発達過程
 (D_v:底盤の鉛直変位量)
 (基盤の逆断層傾斜角:75°, 地盤の層厚:400mm)

- K断層による地層の変形範囲について、より定量的な整理を行うため、奥行き方向へ掘削する前の観察法面における③層中の層理や葉理の走向・傾斜について、シュミットネット下半球法線投影による整理に基づき検討した。
- 最初に、法面観察の結果を踏まえ、③層中の地層の走向・傾斜について、K断層による変位・変形の影響を受けているj層以下の地層のうち、K断層を含む西側の範囲の地層を「K断層による影響を受けたと判断した地層」のグループとし、K断層よりも東側の範囲の地層及びK断層による変位・変形の影響を受けていないk層以上の地層を合わせたものを「K断層による影響を受けていないと判断した地層」のグループとした。
- D-1トレンチ北西法面において、上記で記載した層理や葉理の走向・傾斜取得位置を示す。



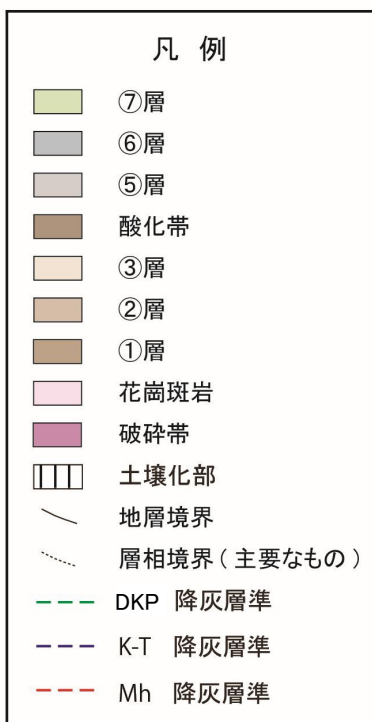
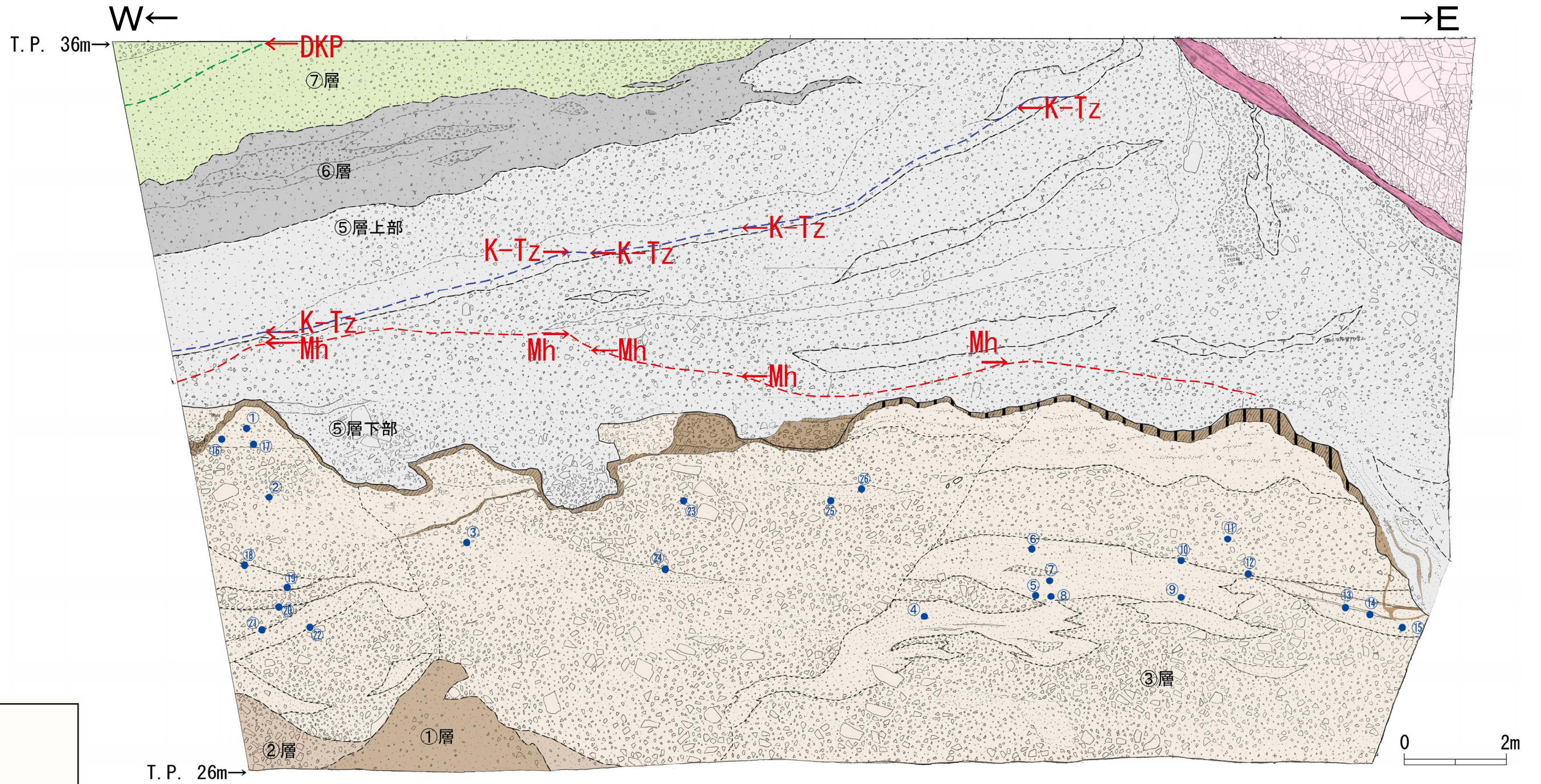
K断層による影響を受けたと判断した地層

4	: N5° E20° E
5	: N17° E19° E
6	: N21° E14° S
7	: N7° E20° E
8	: N21° E16° E
9	: N45° E24° S
10	: N49° E20° S
11	: N53° E26° S
12	: N11° E20° E
13	: N7° E14° E
14	: N3° W38° E
15	: N59° W20° N
16	: N29° W28° E
17	: N35° E22° E
18	: N15° E22° E
28	: N23° W28° E
29	: N31° W12° E
30	: N36° W11° E
31	: N2° W20° E
32	: N37° W16° E
33	: N35° W14° E
34	: N33° W16° E
35	: N22° W19° E
36	: N27° W18° E
37	: N14° W15° E
38	: N23° W18° E
39	: N9° E14° E
40	: N6° W18° E
41	: N13° E14° E
42	: N1° W15° E
43	: N21° E16° E
44	: N43° E24° S
45	: N22° W26° E
46	: N1° W12° E
47	: N13° W16° E
48	: N1° W24° E
49	: N14° E19° E
50	: N39° E20° S
51	: N9° W20° E
52	: N27° W22° E
53	: N24° E21° E
54	: N2° W26° E
55	: N25° E22° E
56	: N4° W28° E
57	: N31° W26° E
58	: N21° W17° E
59	: N4° E16° E
60	: N1° W18° E
61	: N55° W20° N
62	: N53° W10° N
63	: N29° W15° E

K断層による影響を受けていないと判断した地層

1	: N49° W18° W
2	: N71° W16° S
3	: N78° E14° S
19	: N88° E14° S
20	: N38° E10° S
21	: N43° E18° N
22	: N3° E2° E
23	: N48° E12° S
24	: N69° W9° S
25	: N23° E18° W
26	: N71° E3° N
27	: N76° E5° S
64	: N31° E22° W
65	: N69° W10° S
66	: N15° E12° W
67	: N45° E10° N
68	: N67° W14° S
69	: N29° W14° S
70	: N41° E8° N
71	: N69° W20° S
72	: N56° E23° N
73	: N9° E10° W
74	: N29° E12° W
75	: N23° E6° W
76	: N33° E15° W
77	: N46° E2° N
78	: N85° W20° S
79	: N17° E18° W
80	: N31° E28° W
81	: N13° E18° W
82	: N67° W9° S
83	: N7° W9° W
84	: N77° E9° S
85	: N29° W8° W
86	: N47° E8° S
87	: N35° W10° W
88	: N15° W4° W
89	: N87° W4° S
90	: N49° E14° N
91	: N83° E1° S
92	: N49° W8° W
93	: N22° W11° W
94	: N13° E3° W
95	: N1° W14° W
96	: N3° E18° W
97	: N25° E10° W
98	: N77° W12° S
99	: N35° E8° W

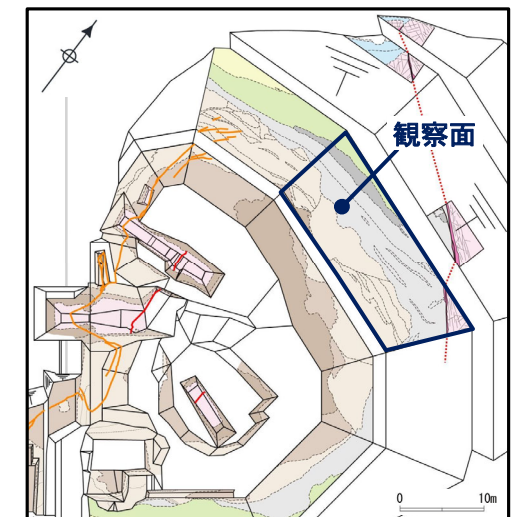
• D-1トレンチ北法面において、層理や葉理の走向・傾斜取得位置を示す。



① : N85° E10° S	⑭ : N36° E12° S
② : N83° E21° S	⑮ : N69° E8° S
③ : N65° E18° S	⑯ : N45° W12° W
④ : N74° E18° S	⑰ : N75° E10° S
⑤ : N70° W7° S	⑱ : N71° W9° S
⑥ : N71° E5° S	⑲ : N59° W14° S
⑦ : N79° W8° S	⑳ : N45° W8° W
⑧ : N64° E6° S	㉑ : N42° E24° W
⑨ : N66° E18° E	㉒ : N55° E23° N
⑩ : N79° W18° S	㉓ : N89° W6° S
⑪ : N78° E18° S	㉔ : N63° W8° S
⑫ : N59° W10° S	㉕ : N69° W18° S
⑬ : N56° E11° S	㉖ : N71° E14° S

□ K断層による影響を受けていないと判断した地層

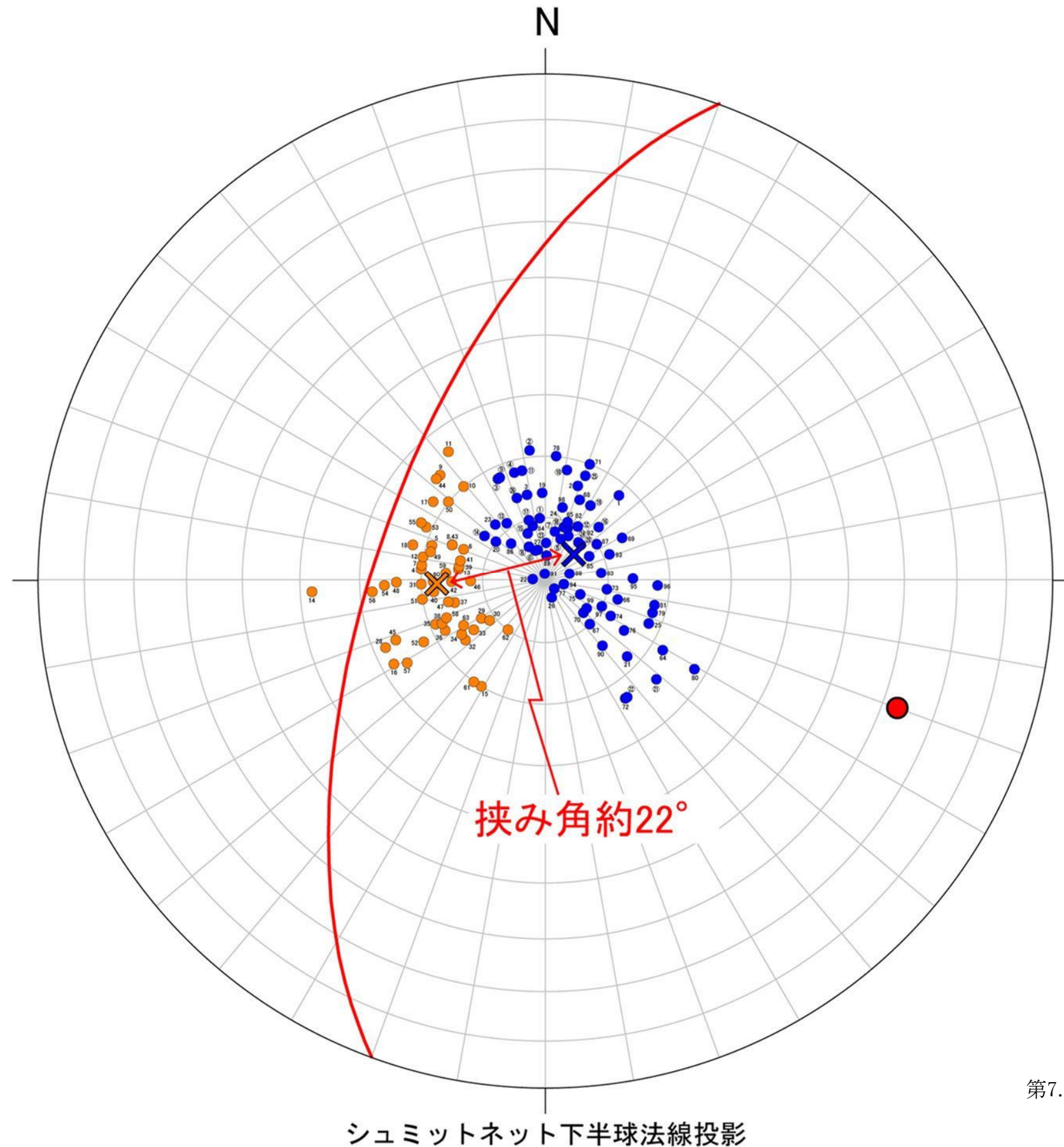
現場確認: 2012年12月



調査位置図

第7.4.4.109図 (2) K断層 走向・傾斜計測結果 (D-1トレンチ北西法面) (その2)

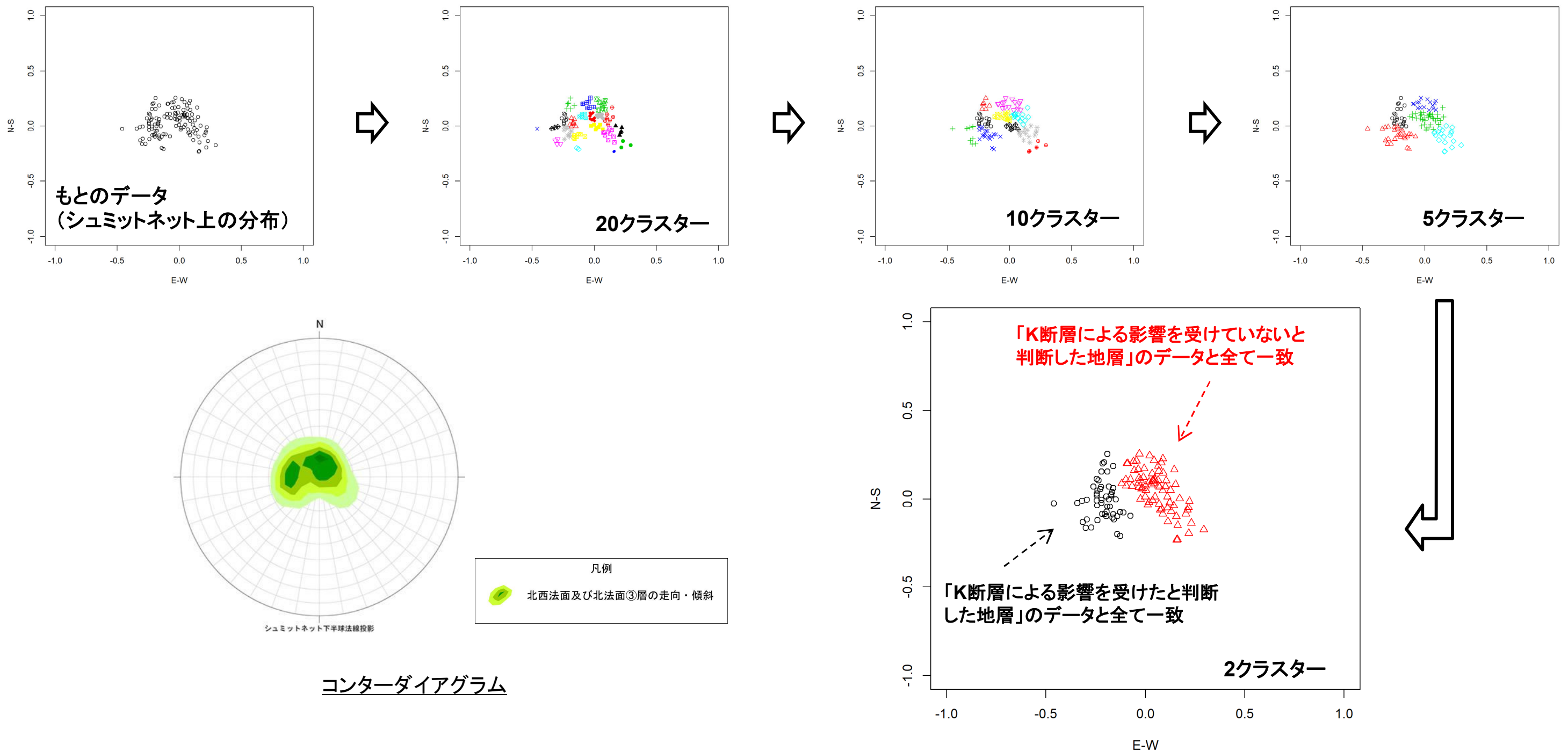
- 「K断層による影響を受けたと判断した地層」のグループは東傾斜のものが多く、「K断層による影響を受けていないと判断した地層」のグループは南傾斜ないしは西傾斜である。
- 2つのグループの最大中心点の傾斜は 20° 程度の差を有しており、概ね南北方向を軸として西側が上昇する方向に回転している状況が認められ、概ね南北方向の走向を持つK断層が西側隆起の逆断層センスであることと調和的である。



- 凡例
- 北西法面におけるK断層の走向・傾斜 ($N20^\circ E63^\circ W$)
 - K断層による影響を受けたと判断した地層
 - ✕ K断層による影響を受けたと判断した地層 (平均値: $N2^\circ W17^\circ E$)
 - K断層による影響を受けていないと判断した地層
 - ✕ K断層による影響を受けていないと判断した地層 (平均値: $N43^\circ W6^\circ W$)

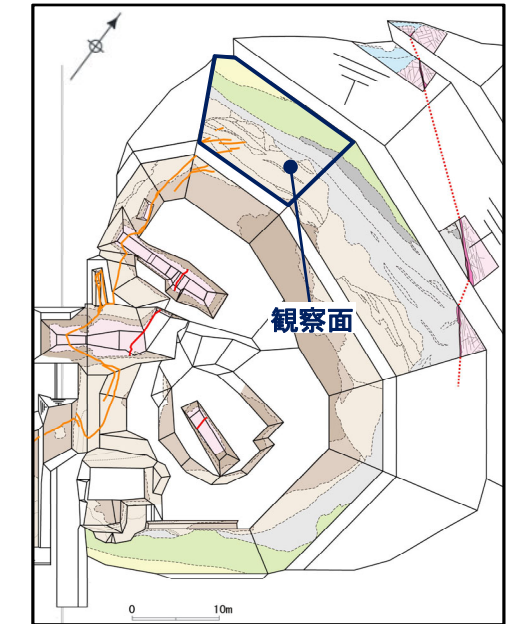
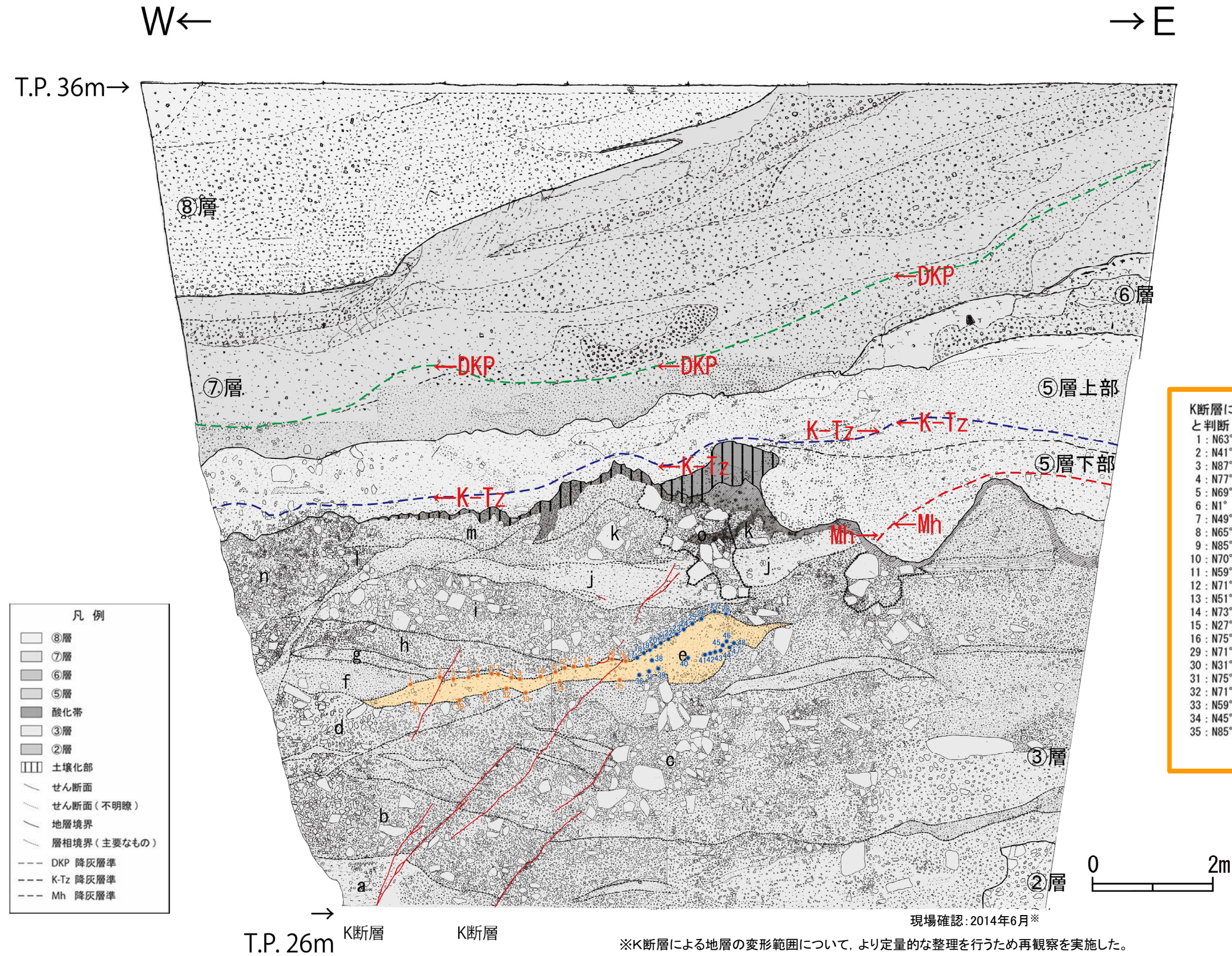
第7.4.4.109図 (3) K断層 走向・傾斜計測結果 (D-1 トレンチ北西法面) (その3)

- 「K断層による影響を受けたと判断した地層」と「K断層による影響を受けていないと判断した地層」のグループに大別することの妥当性を確認するため、クラスター分析において広く用いられているウォード法に基づき検討した。
- その結果、最終クラスター数を2つとした場合、それぞれのクラスターが「K断層による影響を受けたと判断した地層」と「K断層による影響を受けていないと判断した地層」と一致し、法面観察に基づき類似したものを適切にグループ化していることを表していることから、K断層によって影響を受けた範囲とを受けていない範囲を適切に把握出来ているものと判断した。



第7.4.4.109図 (4) K断層 走向・傾斜計測結果 (D-1 トレンチ北西法面) (その4)

- D-1トレンチ北西法面において、隣接する地層の走向・傾斜とは異なる③層中のe層についても、K断層を含む西側の範囲のe層を「K断層による影響を受けたと判断した地層」のグループとし、K断層よりも東側の範囲のe層を「K断層による影響を受けていないと判断した地層」のグループとし、同様の検討を行った。
- e層の層理や葉理の走向・傾斜取得位置を示す。

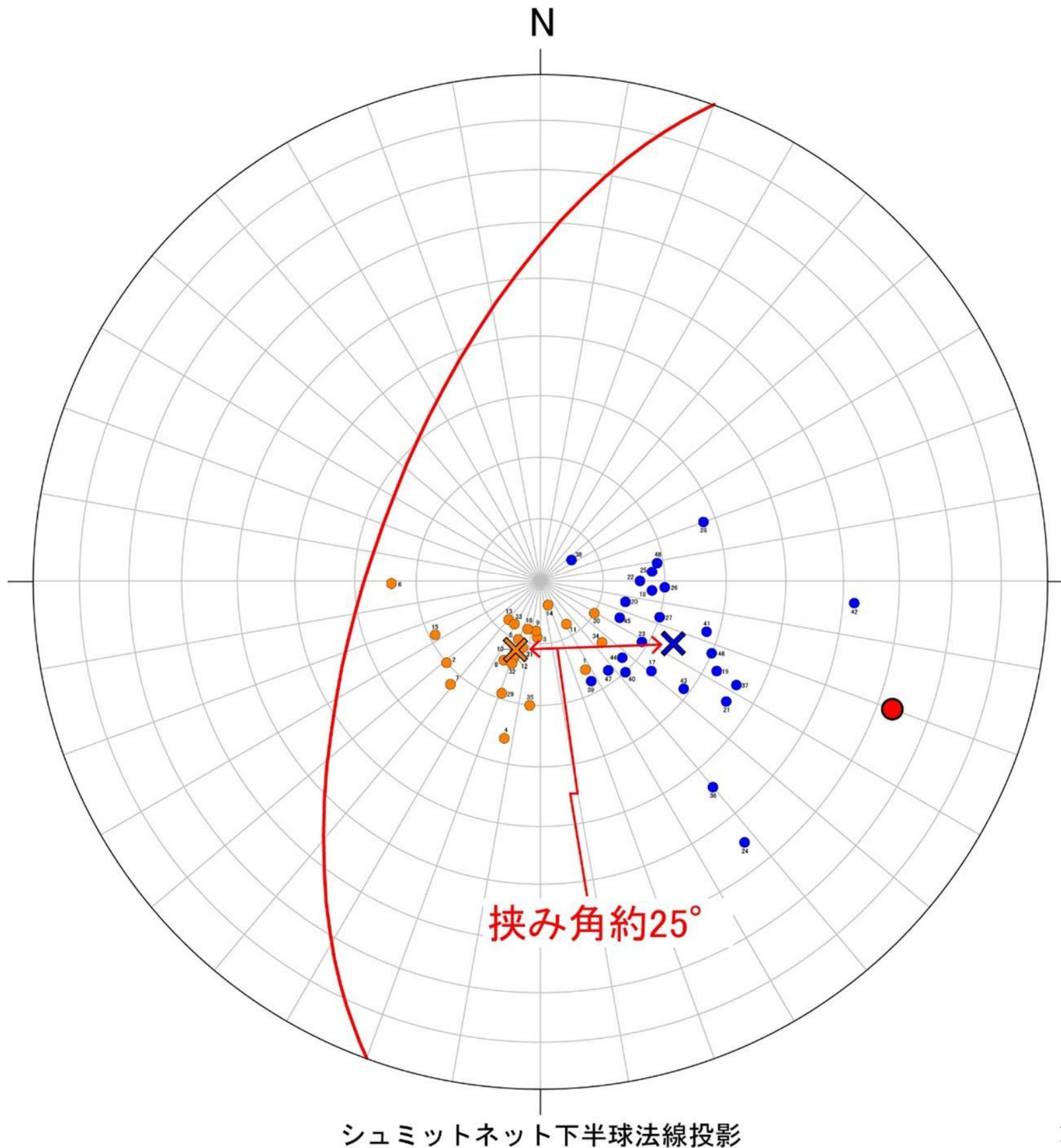


調査位置図

K断層による影響を受けたと判断した地層	K断層による影響を受けていないと判断した地層
1: N63° E16° N	17: N39° E23° W
2: N41° W20° N	18: N5° E18° W
3: N87° W9° N	19: N27° E32° N
4: N77° W26° N	20: N14° E14° W
5: N69° W10° N	21: N33° E36° N
6: N1° W24° E	22: N516° W
7: N49° W22° N	23: N31° E19° W
8: N65° W14° N	24: N52° E55° N
9: N85° W8° N	25: N5° W18° W
10: N70° W12° N	26: N3° E20° N
11: N59° E8° N	27: N17° E20° W
12: N71° W13° N	28: N20° W28° W
13: N51° W8° N	36: N50° E44° W
14: N73° E4° N	37: N28° E36° W
15: N27° W19° N	38: N35° W6° S
16: N75° W8° N	39: N63° E18° N
29: N71° W19° N	40: N47° E20° N
30: N31° E10° W	41: N17° E28° W
31: N75° W11° N	42: N4° E52° W
32: N71° W14° N	43: N37° E29° W
33: N59° W8° N	44: N43° E18° N
34: N45° E14° N	45: N25° E14° W
35: N85° W20° N	46: N23° E30° W
	47: N53° E18° W
	48: N9° W19° S

第7.4.4.109図(5) K断層 走向・傾斜計測結果(D-1トレンチ北西法面)(その5)

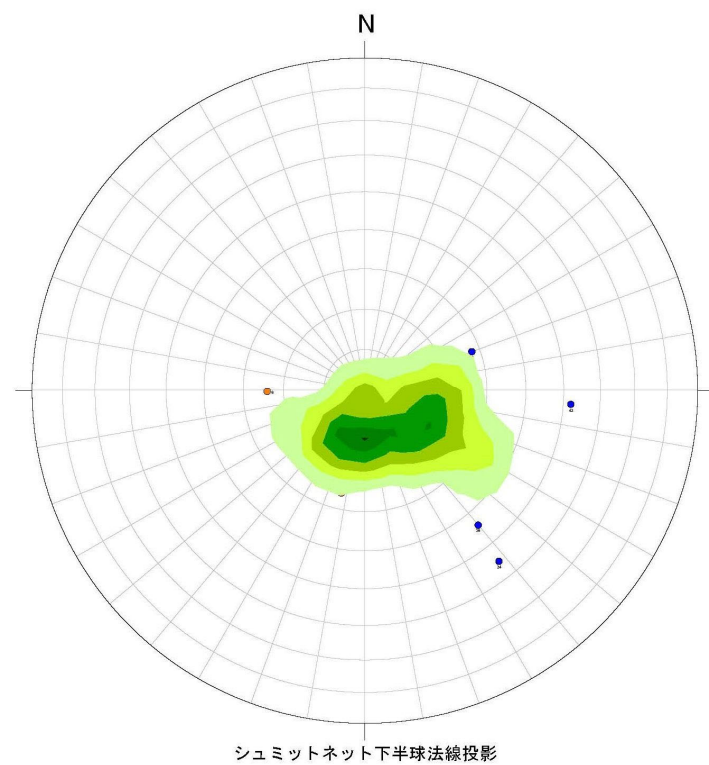
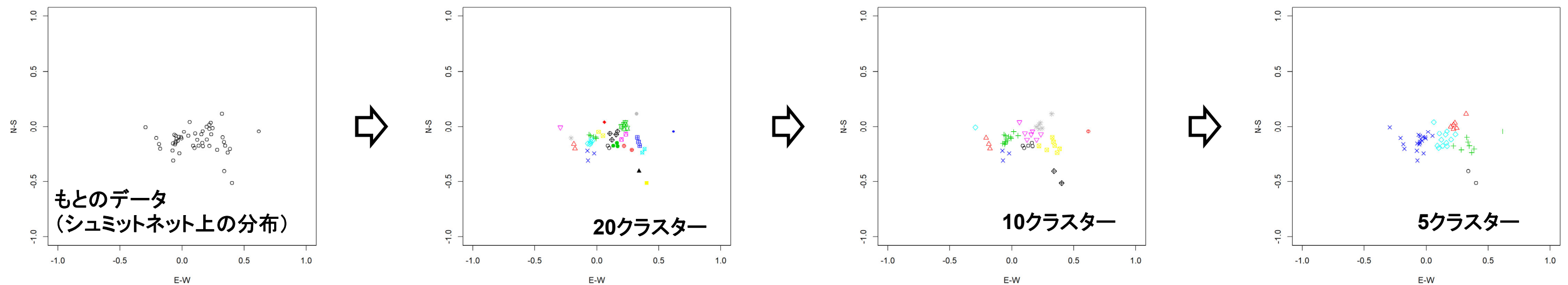
- 「K断層による影響を受けたと判断した地層」のグループは主として北東傾斜であり、「K断層による影響を受けていないと判断した地層」のグループは主として北西傾斜である。
- 2つのグループの最大中心点の傾斜は 20° 程度の差を有しており、概ね南北方向を軸として西側が上昇する方向に回転している状況が認められ、概ね南北方向の走向を持つK断層が西側隆起の逆断層センスであることと調和的である。




- 凡例
- 北西法面におけるK断層の走向・傾斜 ($N20^\circ E63^\circ W$)
 - K断層による影響を受けたと判断した地層
 - ✕ K断層による影響を受けたと判断した地層 (平均値: $N70^\circ W12^\circ N$)
 - K断層による影響を受けていないと判断した地層
 - ✕ K断層による影響を受けていないと判断した地層 (平均値: $N25^\circ E24^\circ W$)

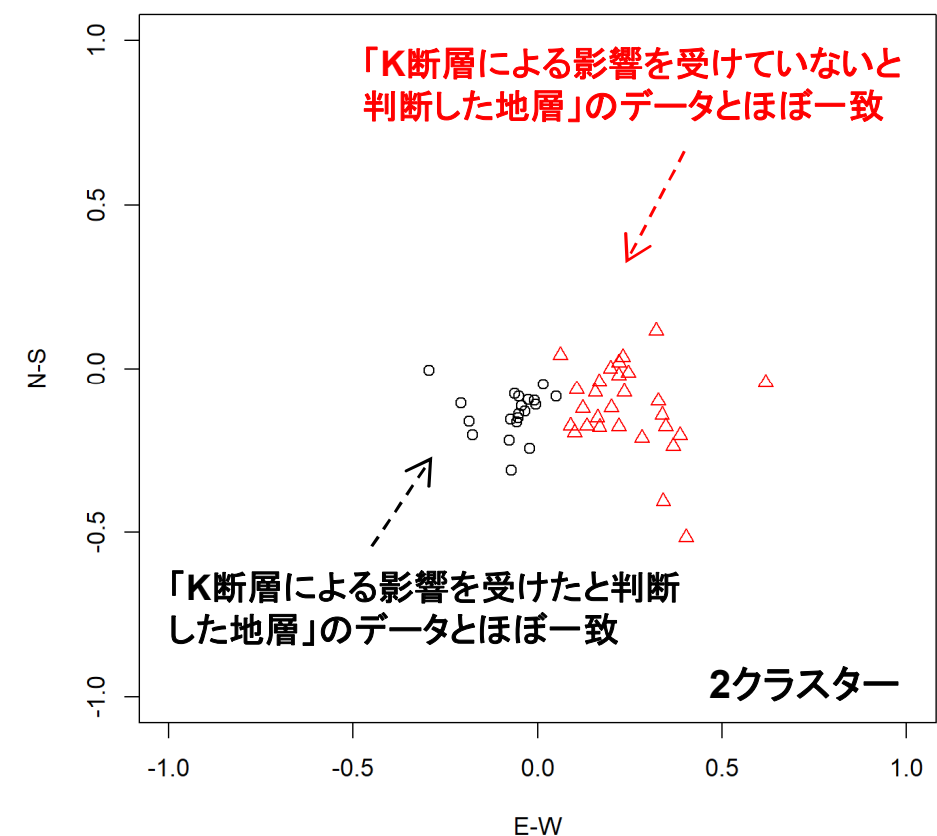
第7.4.4.109図 (6) K断層 走向・傾斜計測結果 (D-1 トレンチ北西法面) (その6)

- 「K断層による影響を受けたと判断した地層」と「K断層による影響を受けていないと判断した地層」のグループに大別することの妥当性を確認するため、クラスター分析において広く用いられているウォード法に基づき検討した。
- その結果、最終クラスター数を2つとした場合、それぞれのクラスターが「K断層による影響を受けたと判断した地層」と「K断層による影響を受けていないと判断した地層」と一致し、法面観察に基づき類似したものを適切にグループ化していることを表していることから、K断層によって影響を受けたe層の範囲と受けていないe層の範囲を適切に把握出来ているものと判断した。



凡例
 北西法面③層 e層の走向・傾斜

コンターダイアグラム



第7.4.4.109図 (7) K断層 走向・傾斜計測結果 (D-1 トレンチ北西法面) (その7)